

失われた
ペンダント

モノクロ漫画

100p

本編96p

片思いだった先輩に寝取られる彼女



登場人物

河野

広告代理店に勤める。
やり手だがかなりの女たらし。
唯花の大学時代の片思いの相手。



茜
河野のセフレ。

亮太

唯花の一つ上の先輩。
詩織の恋人。

詩織

唯花の一つ上の先輩。
亮太の恋人。

雫

唯花の同期で親友。
輝一の恋人。

輝一

唯花の一つ上の先輩。
河野の同僚。
雫の恋人。



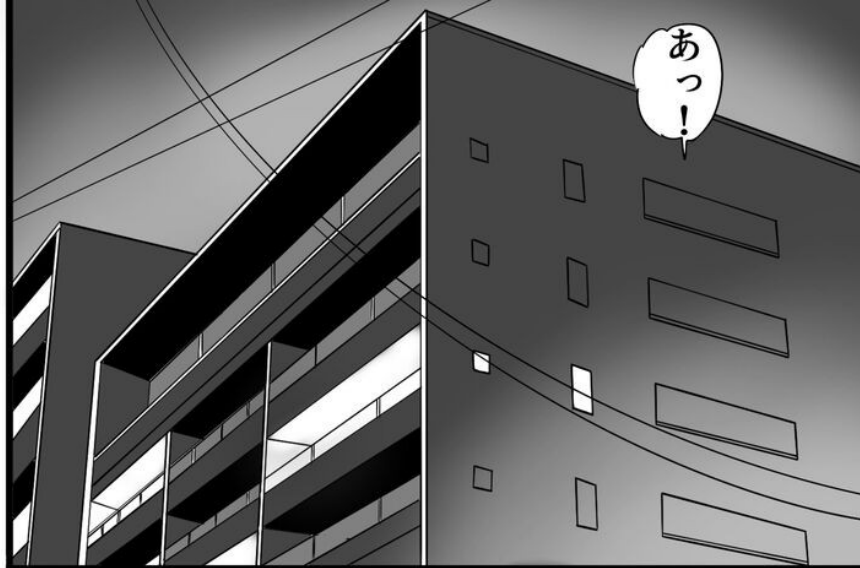
桜坂 唯花

社会人一年生。
拓也と今春から同棲中。
大学時代、河野に一目惚れし、以後
2年間、片思いを続けていた。

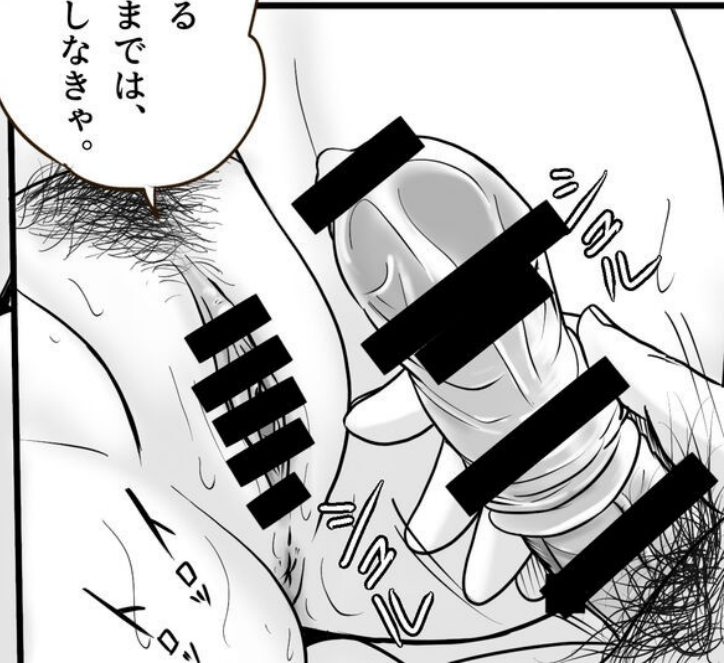


岬 拓也

社会人一年生。
唯花と同棲中。
河野を警戒している。







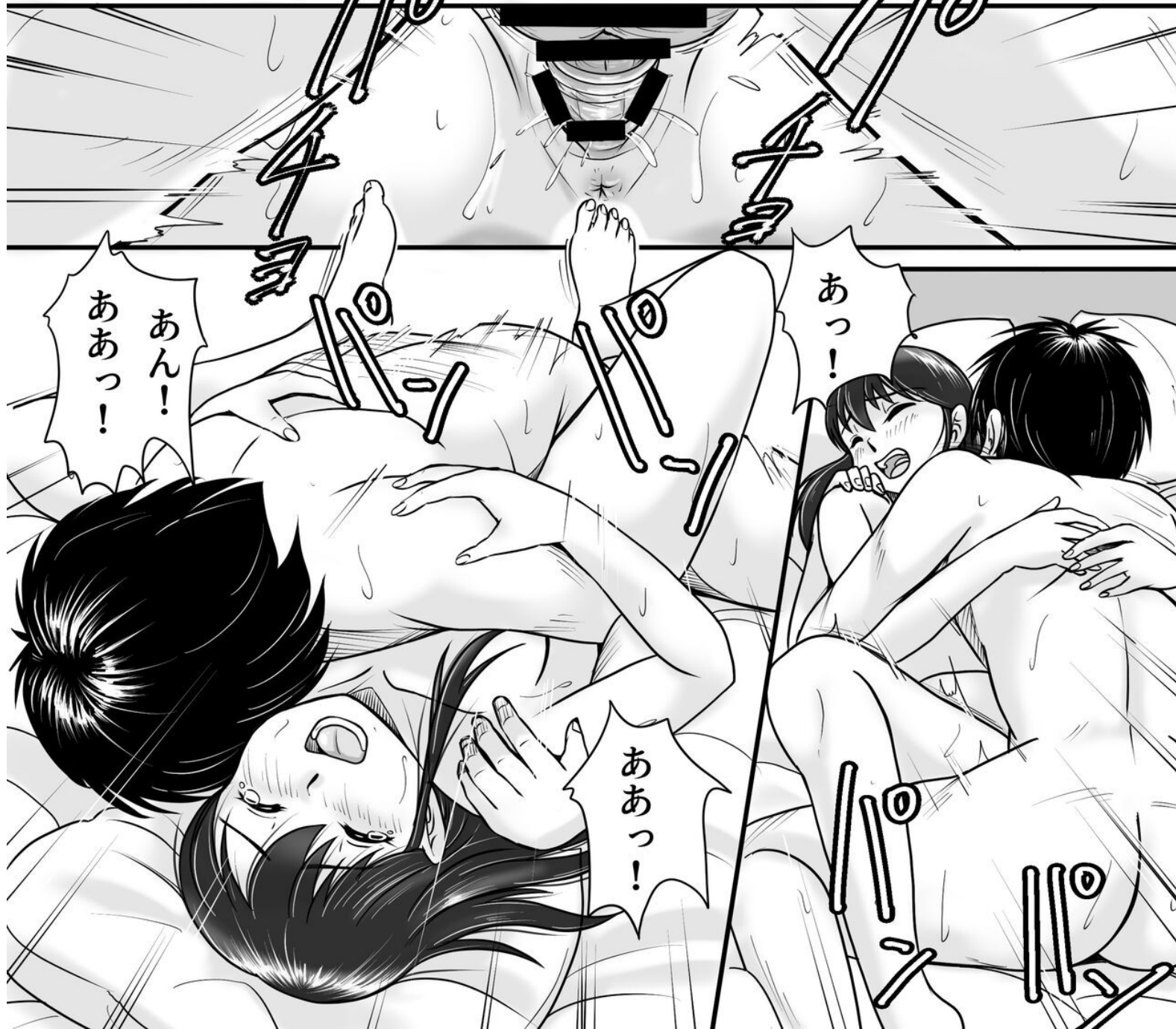
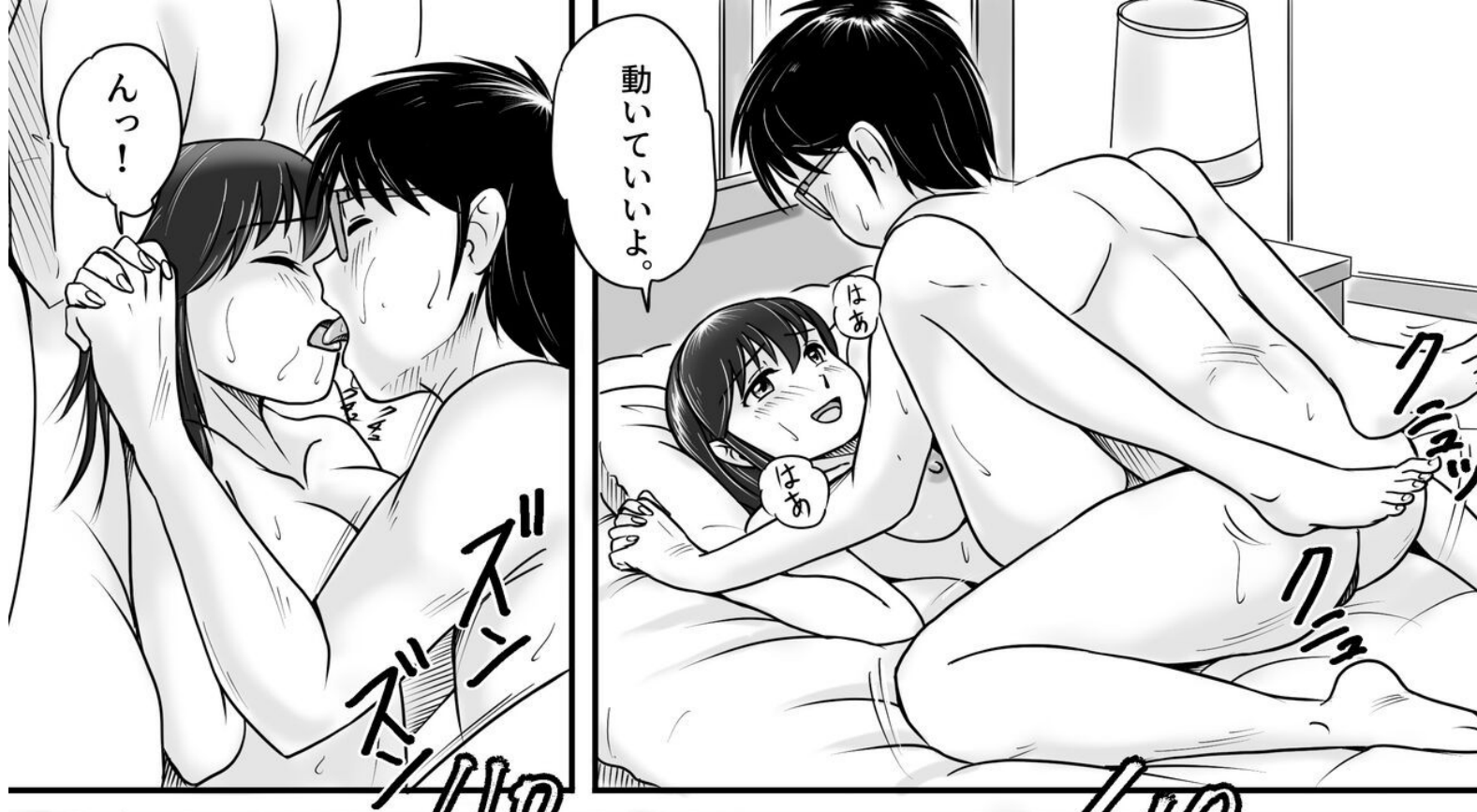
唯ちゃん
入れるよ。

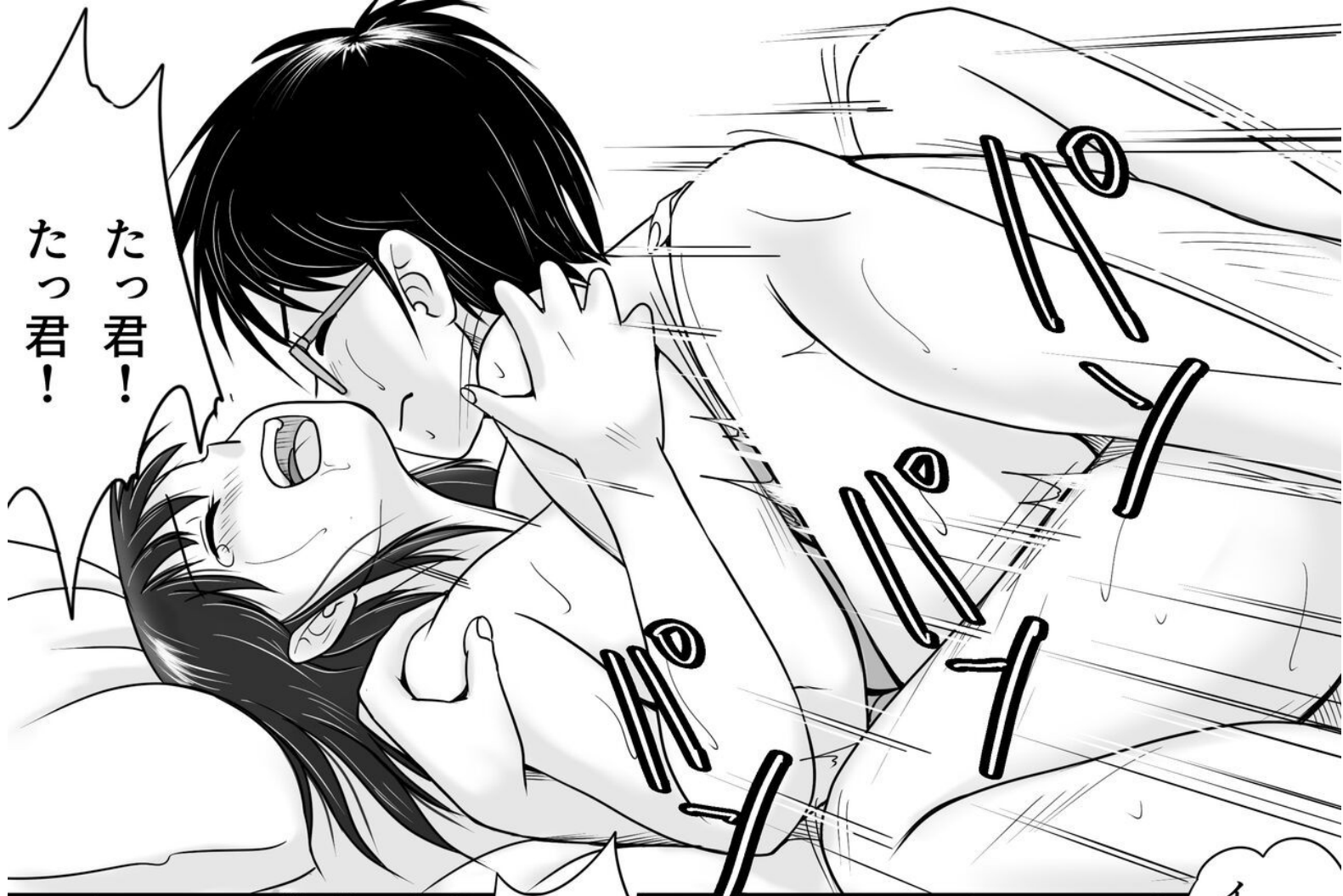
あ、

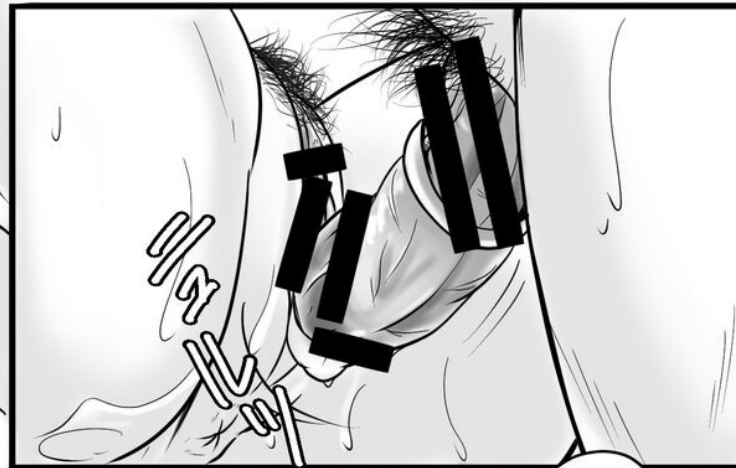
ああんっ！

ああっ！
あん！

あん！







そういえばOB会
明日だよな。

うん、そうだよ

あー、いきたかったなあ、
輝一先輩や亮太先輩とも
会いたかったよ。

ところでさ、
河野さんも
来るんだよね。

え？
う、うん。
そうきいてる。

あれからはずっと
たっ君だけ。

もう二年以上
前だよ。

何ー！気にして
るの？

そ、そうだよな。

ポッポッ

私は、桜坂唯花と言います。
今年春から社会人になりました。

河野さんは、同じ大学のサークルで
二年先輩でした。
私の初恋、片思いのお相手でした。

物凄く大人びていて、どこか
危険な香りのする方でした。

中、高とずっと女子校で純粹
培養されてきた私は、
河野さんの大人の魅力に一度に
恋に落ちてしまいました。

河野さんに特定の彼女が
いたかは分かりません。

当時インキヤ地味女子だった私に、
河野さんが関心を持ってくれるはずもなく、
ずっと悶々とした日々を過ごしていました。

悪友に急かされて、何度か告白を試みました。

そうこうするうちに河野さんは卒業、大手広告代理店に就職し、二年に渡った私の片思いも終わりを告げました。

ちようどその頃、
拓哉君、たっ君から告白を
受けました。

河野さんが時折見せる
氷のような冷たい視線をもらうのが怖く、
踏み切れないでいました。

たつ君は、私と同じ学科、
サークルだったこともあり、
大学で一番よく話をする
男子でした。

彼も私の河野さんへの想いを
知っていたので
告白は、河野さんの卒業を
待っていたとのことでした。

「ハア？
ところで
誰だお前」

唯ちゃん
好きだよ

突然の事に戸惑いましたが、彼の誠実さ、趣味や好み が似ていること、何より私自身の気持ちに区切りをつけたくて、 たっ君とお付き合いを始めました。

付き合い始めてみると、話も合い、 どんどんと彼に惹かれていきました。

初めてのキスも、

初めてのセックスも たっ君でした。

そして今年の春から 就職を機に部屋を借りて 同棲を始めました。

コンタクトに
しました。

私は、たっ君のおかげで 色んなものから卒業できたと思います。 彼には感謝しているのです。

I'm a gloomy character

今日は唯ちゃんに
あげたい物があるんだ。

これ、付き合ってくれて
二周年って事で



え！ありがとう！
付けて良い？

もちろん



どう、似合う？

これからもっと頑張って良い物を
あげられるようにするよ。



安物だけだね。



ずっと一緒に居て欲しいからね。

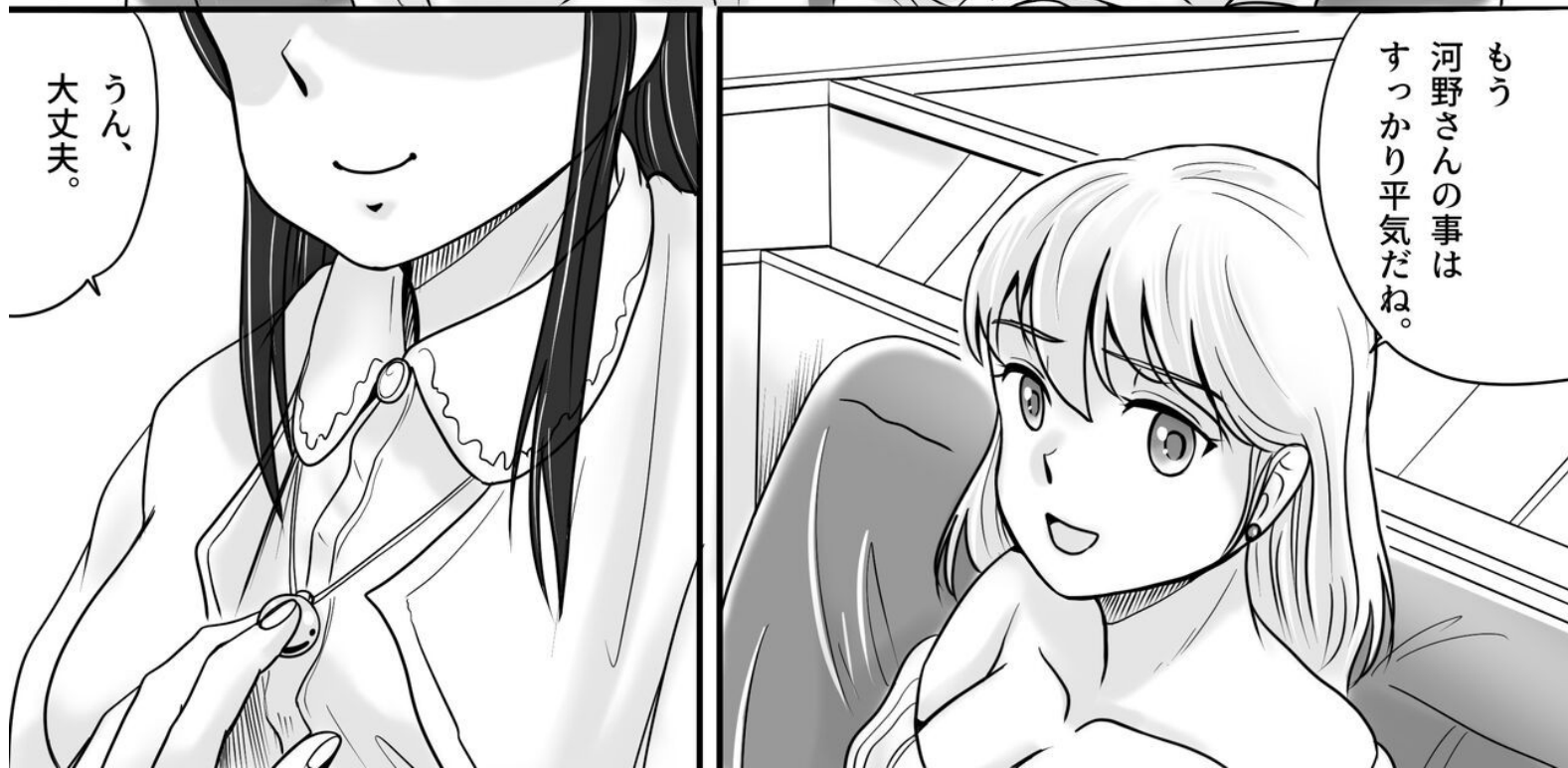
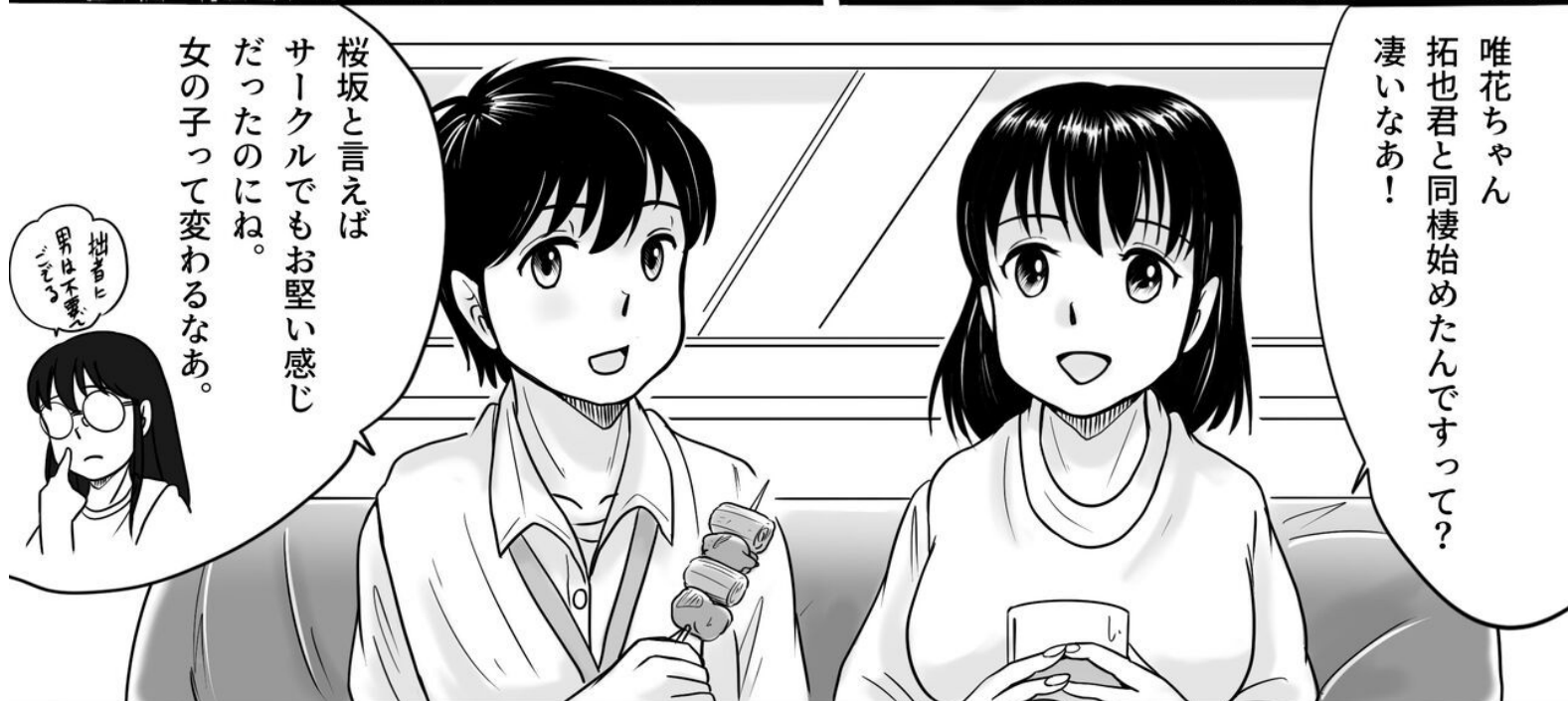
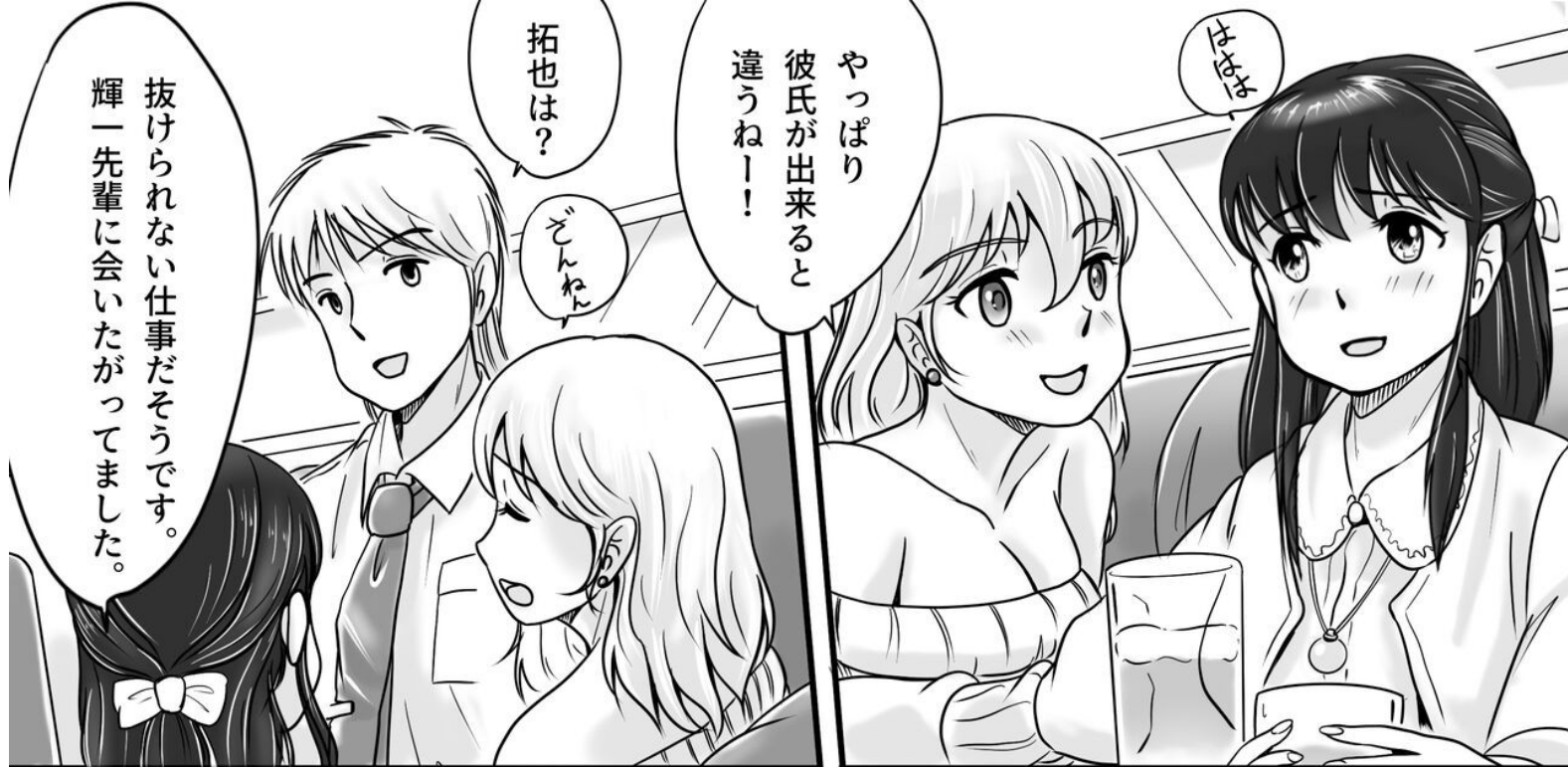
お守りにもなるかなって

もちろん！
ありがとう、たっ君！

たっ君大好き！







輝ちゃん
河野さんと同じ部署
でしょ？

河野さんは？

急な
ミーティングで
遅れて来るって。

会社じゃ
随分やり手だ
そうじゃない？

複数のプロジェクト
掛け持ちして
こなしてるね。

若手のホープだよ。

でも
悪い噂も聞くよ。

特定の彼女を
作らずに

複数の女の子と
遊んでるって話し
聞いた事あるよ。

ところで、
唯ちゃん。

えっ、
なに？

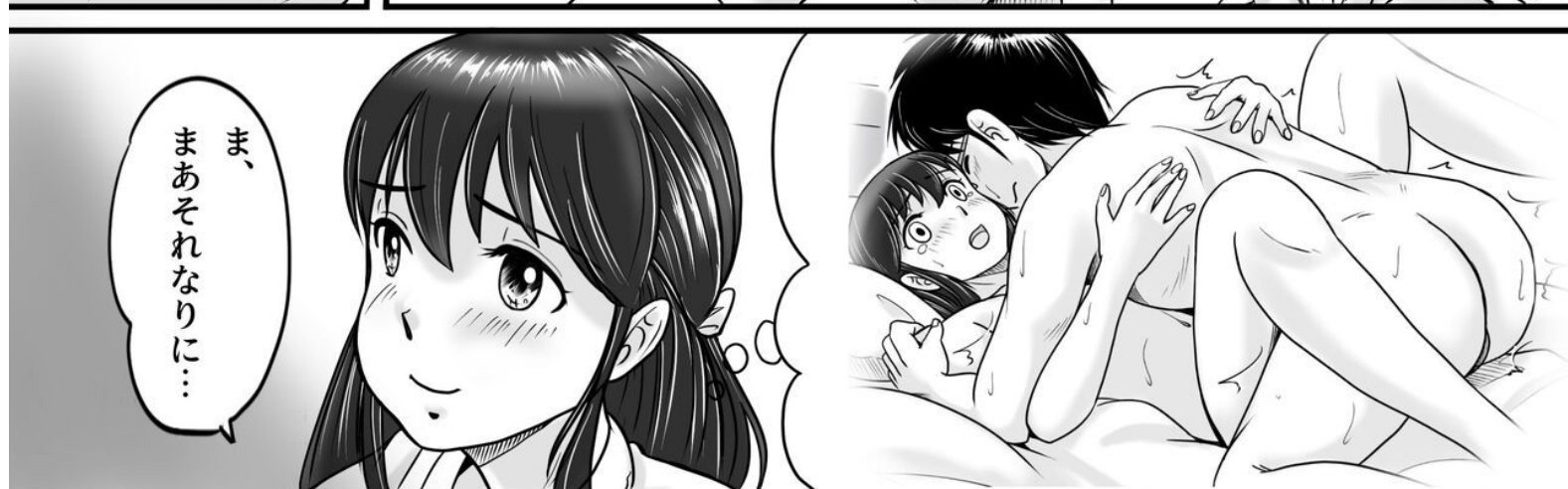
アッチの方は
どうなの？

エッチの方よ。
拓哉君って
草食系っぽいじゃ無い？

ちゃんとしてる？



ま、
まあそれなりに…



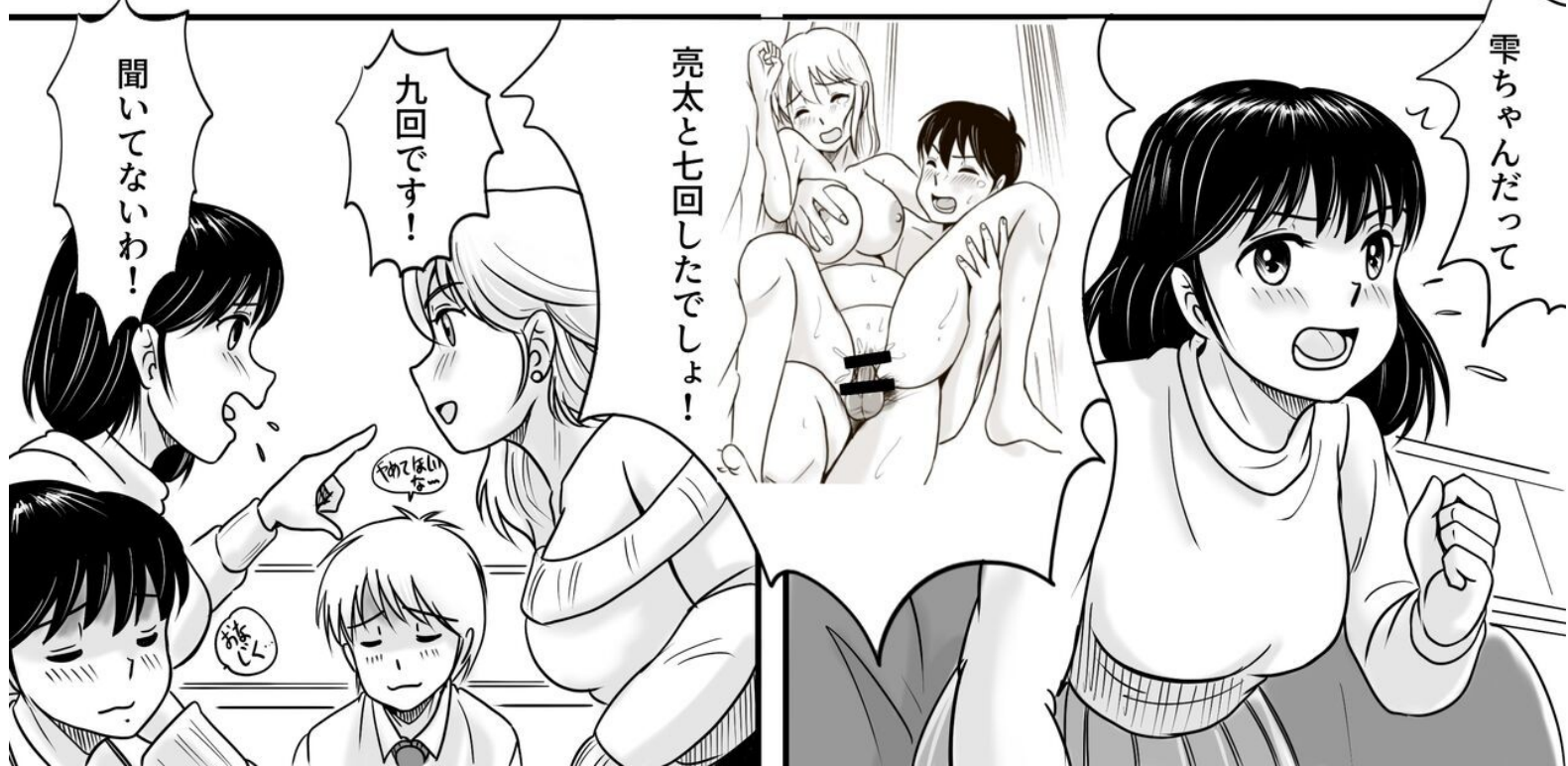
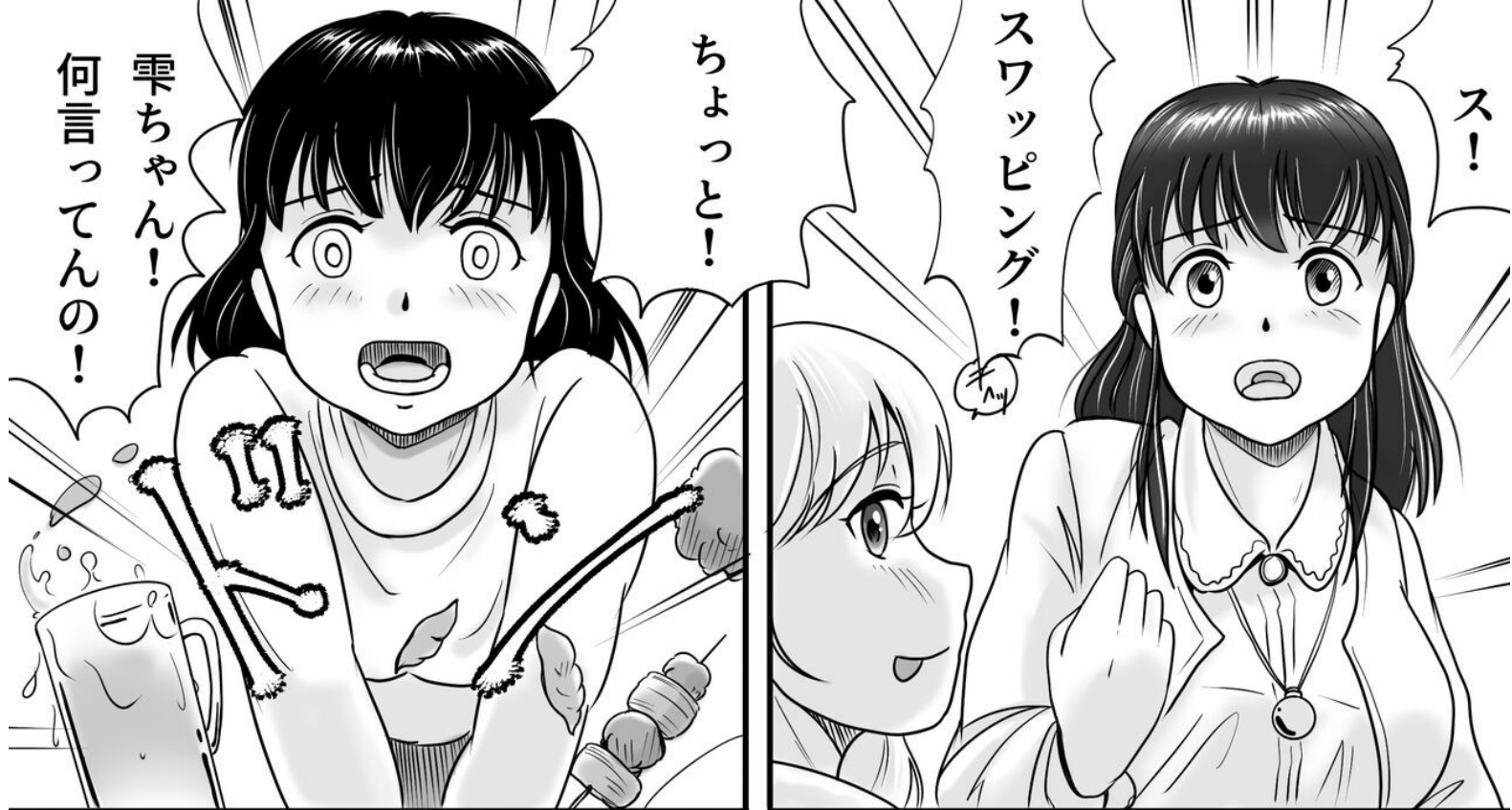
結婚はまだでしょ？
そうだとしたら
いろいろ試して
相性を確認した方が
良いわよ。

唯ちゃんも
奥手なんだから、
たまにはハメを外してさ！
自分を解放してみるとか

解放といえば、
私たちスワッピングとか
してるの

あー、
ほいな～





よう
久しぶり。

なんだか
面白そうな話を
してるじゃないか。

ド
キッ

河野さん
お疲れ様です。

あー
野球の話ですよ！

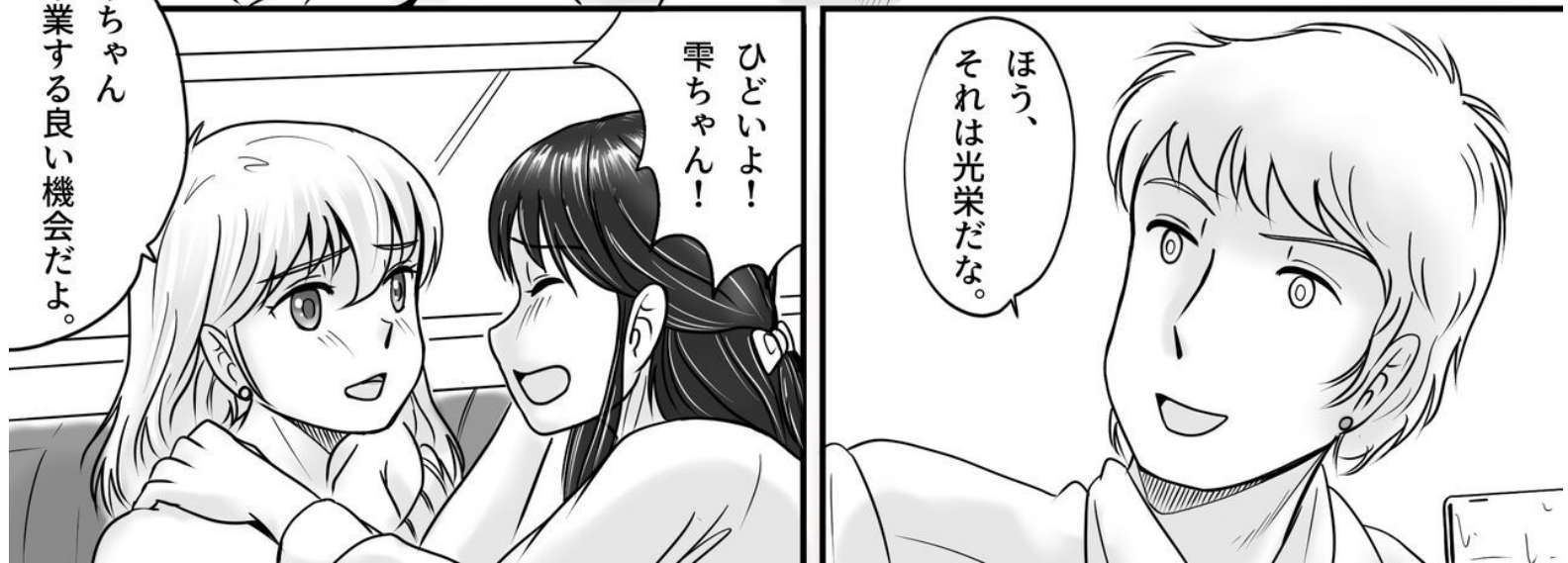
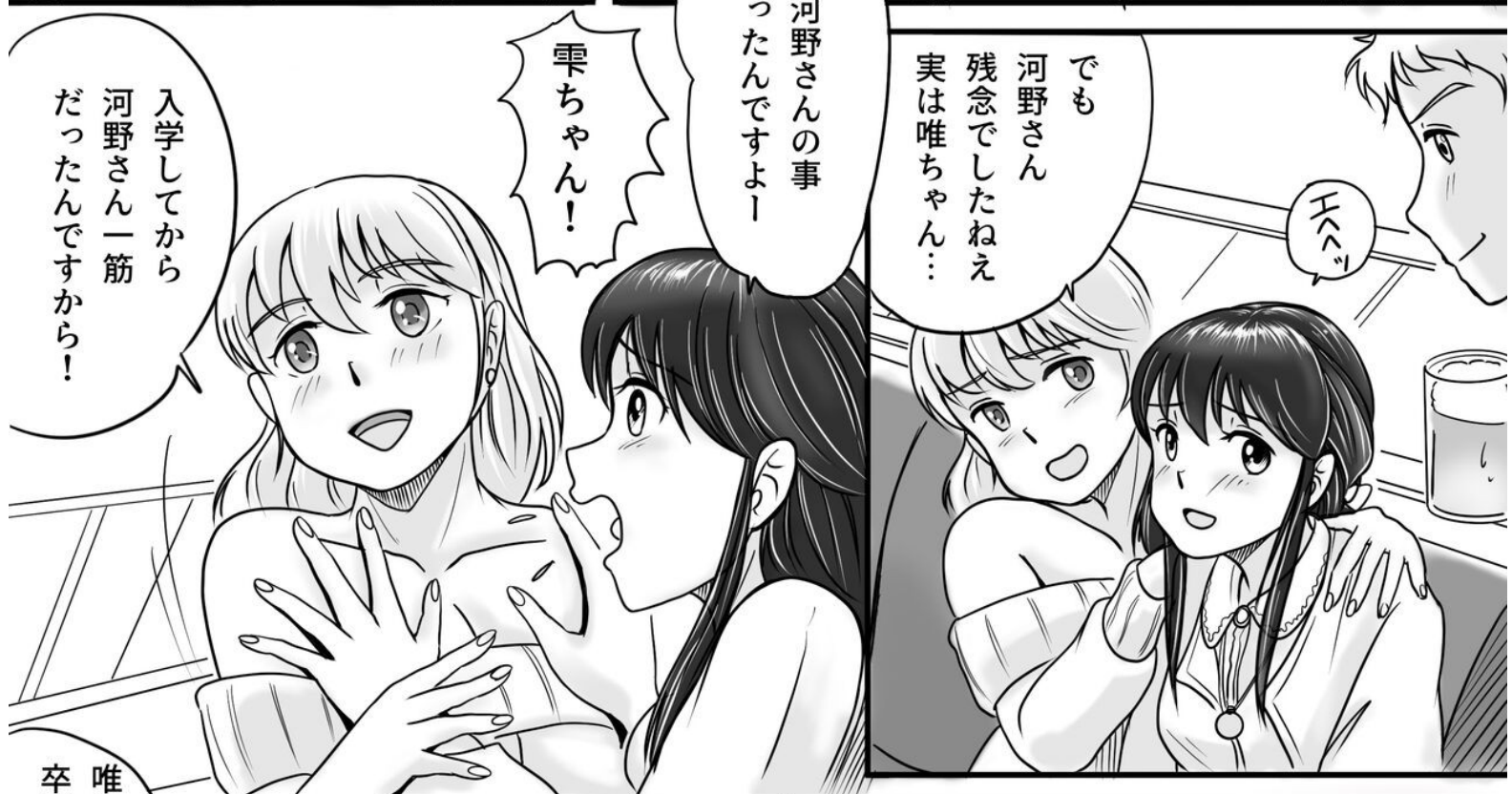
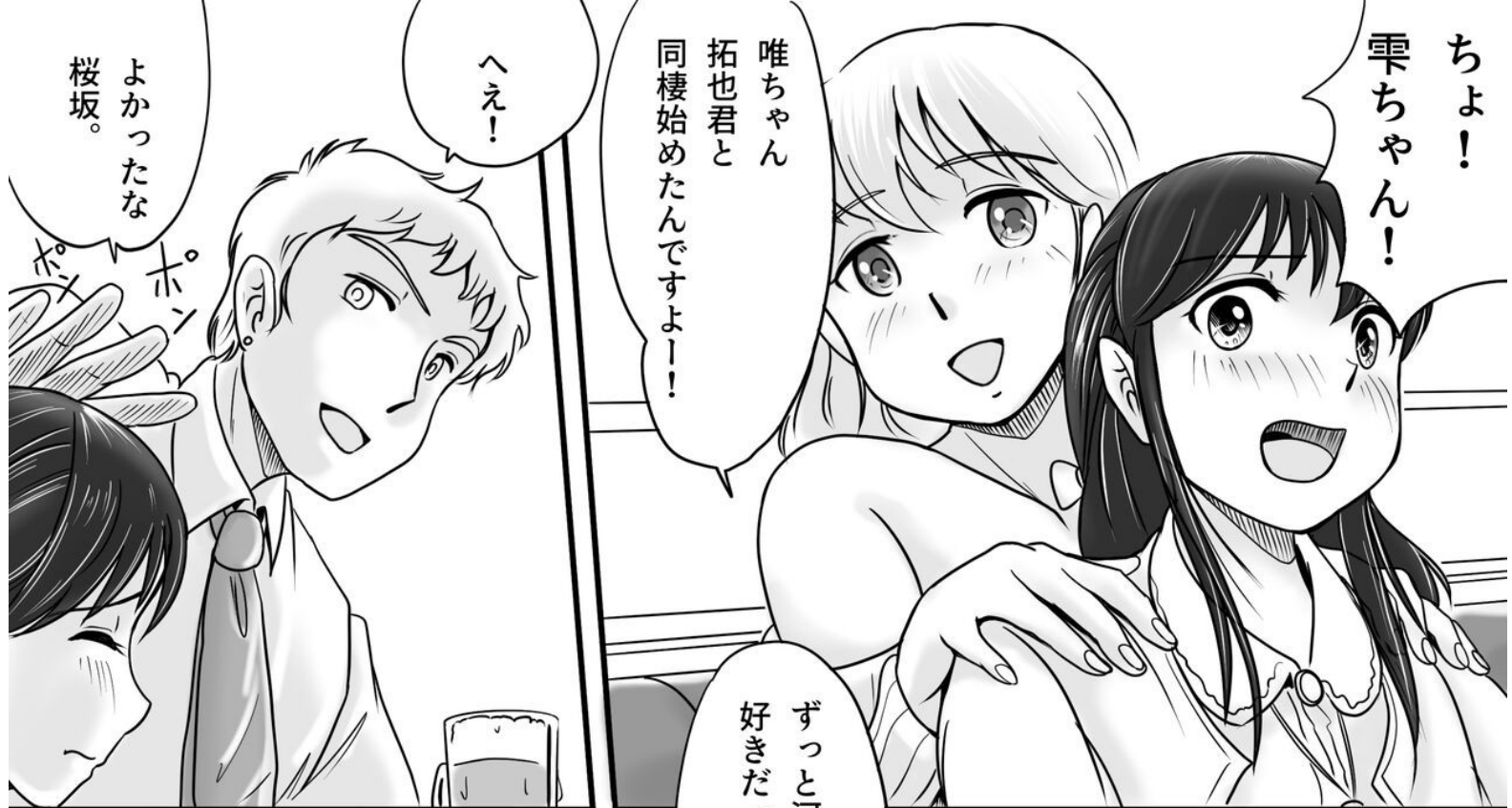
そうそう
この前の決勝戦
すごかったですね。

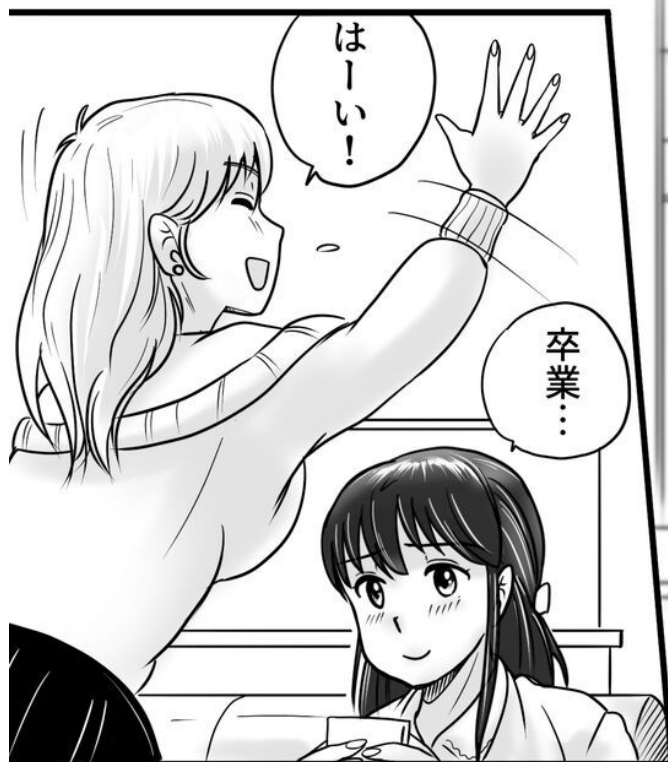
そうそう

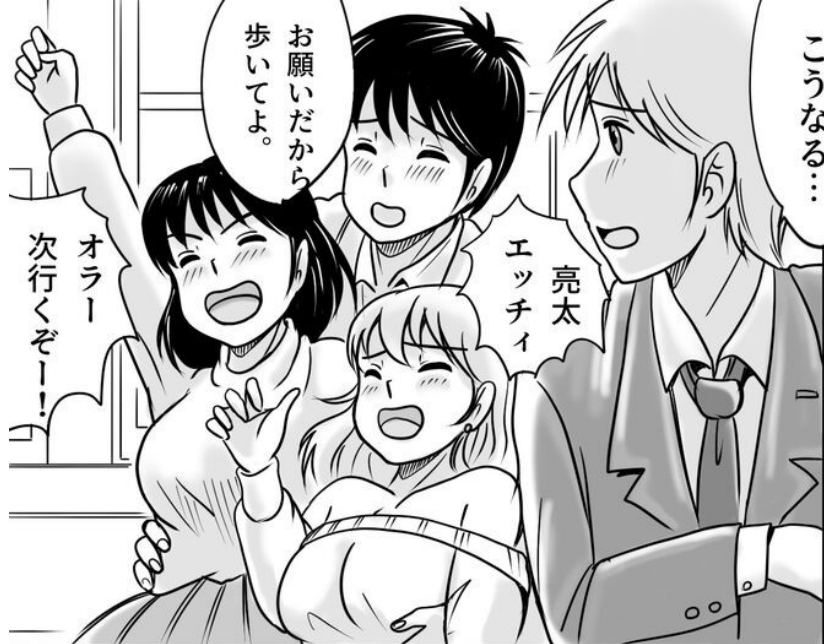
そ、そう言えば……

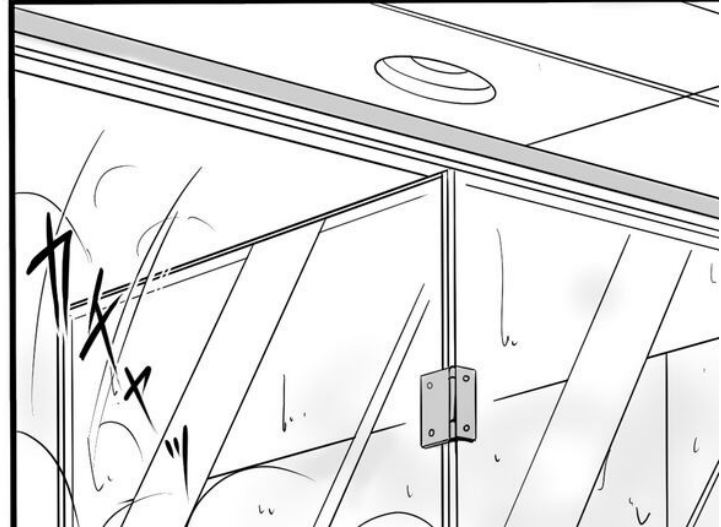
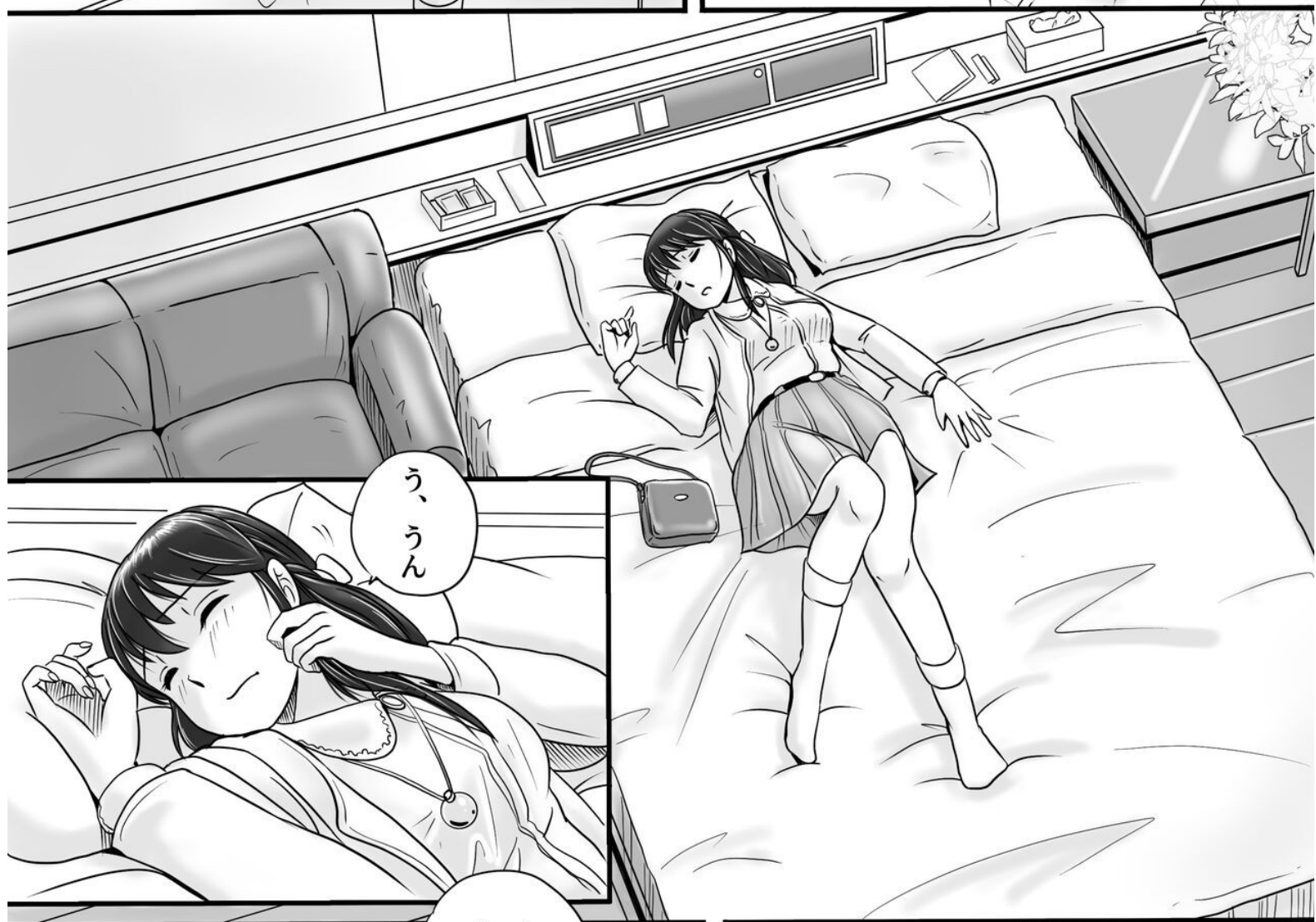
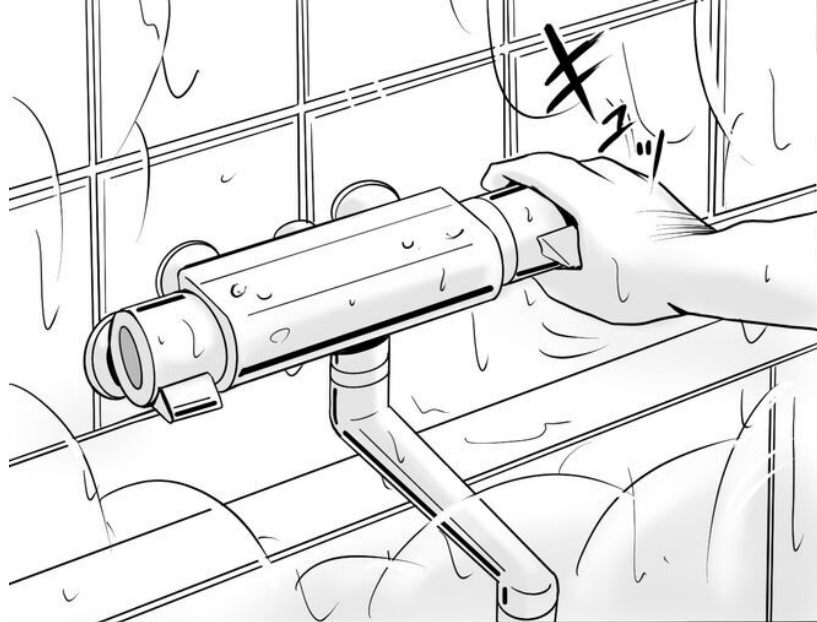
唯ちゃんが……

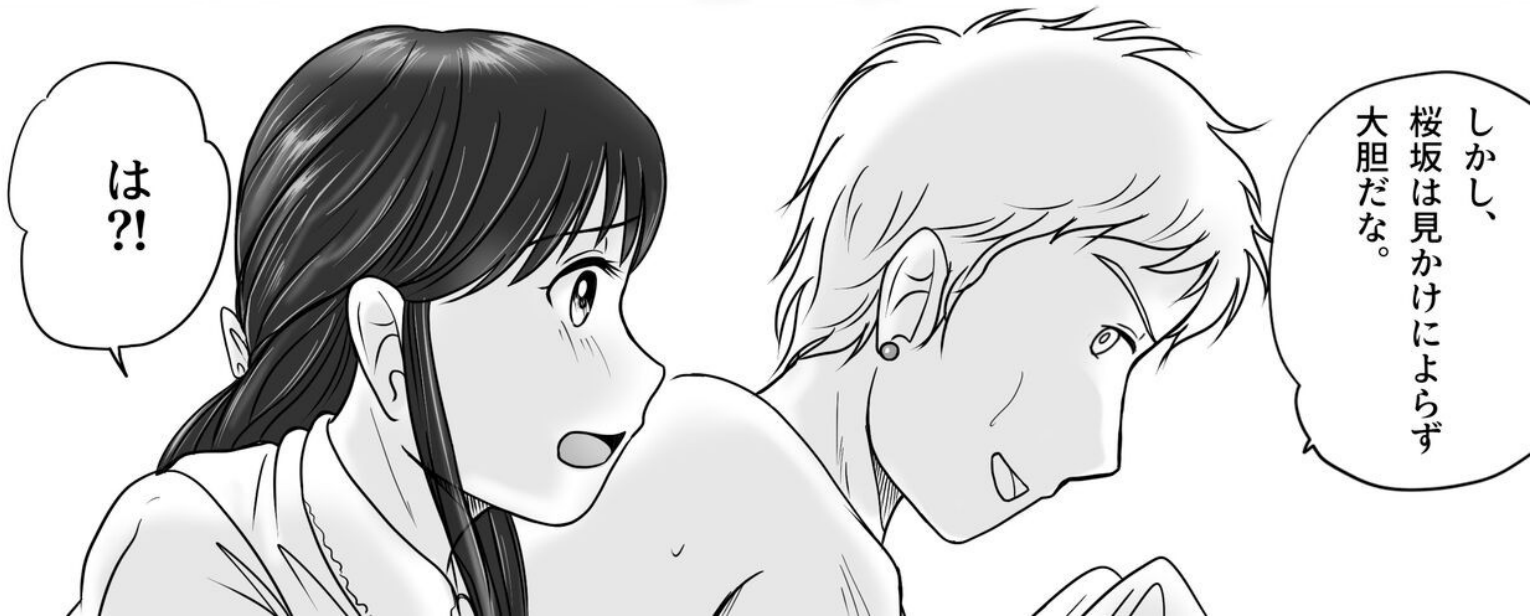
そうかな？
俺には
違う様に聞こえたけど？











彼氏持ちなのに俺と
ホテルに入ろうなんて。

は？

そんな事
言ってますん！

言ったじゃん。
河野さん休んでいきましようって。

河野さん
あそこで
休んでいきましよう

あれは、
コーヒーショップ
の事です！

まあなんでもいいや。

せっかく入ったんだし
やる事やっちゃおうよ。

しません！
帰ります！

なあ桜坂。
少し話しを
聞いてくれ。

さっき雫が言ってた
桜坂が俺を好きだったって話。

あれ、ショックでさ。

え?!

実は俺も君の事
ずっと好きだったんだ。

サークルに入って来た時から
ずっと気になってて
気づいたら結構本気で惚れてて…

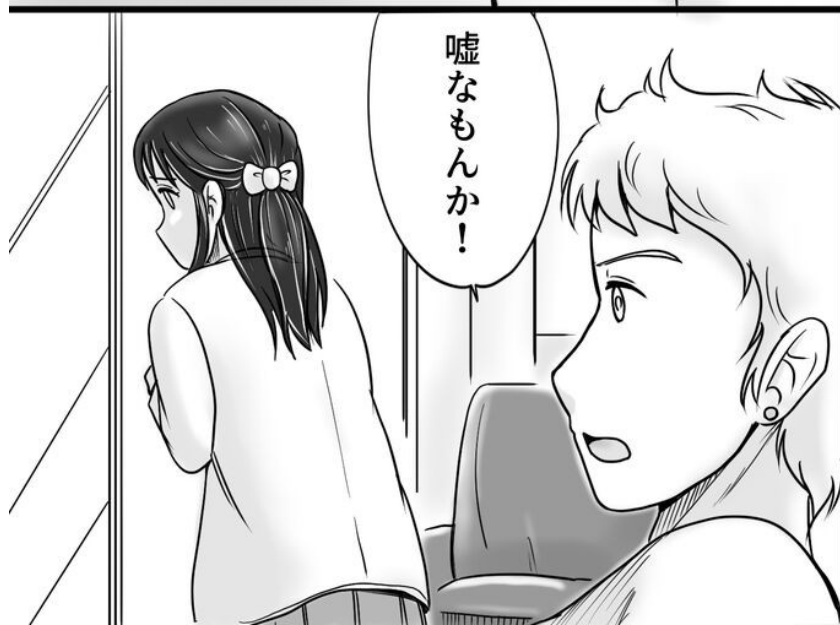


俺の周りって結構派手目の娘が
多かったろう。

だからってわけじゃないけど、
桜坂みたいな清楚系が
気になったのかもね。

そ、そんな。
嘘ですよ。

嘘なもんか!



ギシ

まあ すぐには信じて貰えないかもだけど。

つまりは、
俺たち二人は最初から
両思いだったって事だ。



君の今の彼氏
拓也に君を譲ってくれと
頼まれたんだよ。

じゃ、じゃあ、
 なんだあの時
 言ってくれなかったんですか。

そう、拓哉に呼び出されて
頼まれたんだよ。

「河野さんは他にも女の子がいるでしょう！
僕には桜坂さんしか居ないんです。
おねがいだから諦めて、僕に譲ってください」
ってね。

だから言ったのさ、
「もし桜坂が俺の卒業までに
告って来たら俺はあいつと付き合う」
ってさ。

結局、君は俺に告ってこなかった。
それであっさり拓哉に譲ったのさ。

そ、
そんな…

たっ君が…

だから本来は
俺たちが付き合う
はずだったんだ。

たとえそうだとしても、
私は、たっ君の彼女です！

彼は裏切れま
せん！

別にあいつと別れて
俺と付き合えって言ってる
わけじゃないんだ。



俺も君から卒業する為に
思い出が欲しいんだ。
両思いだった
大学時代の思い出をね。

卒業するための
思い出…



結婚する前に
色々経験して…



たまには自分を解放して…



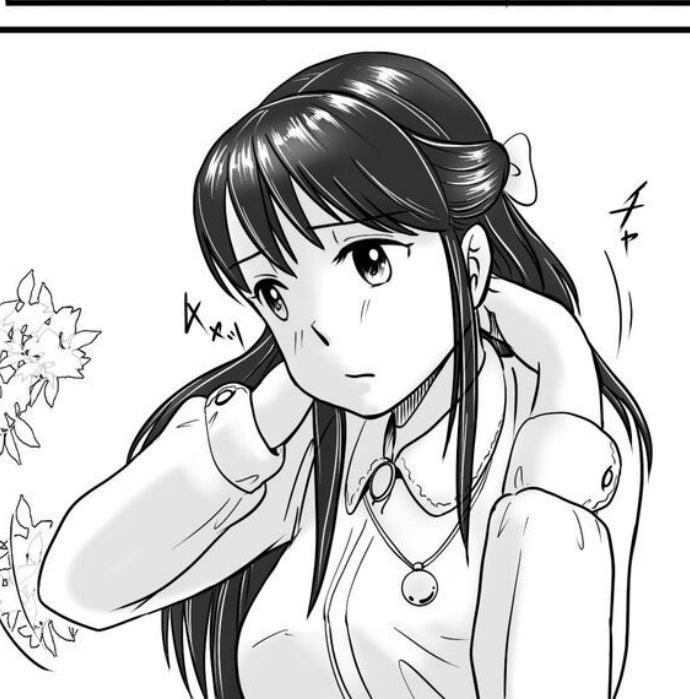
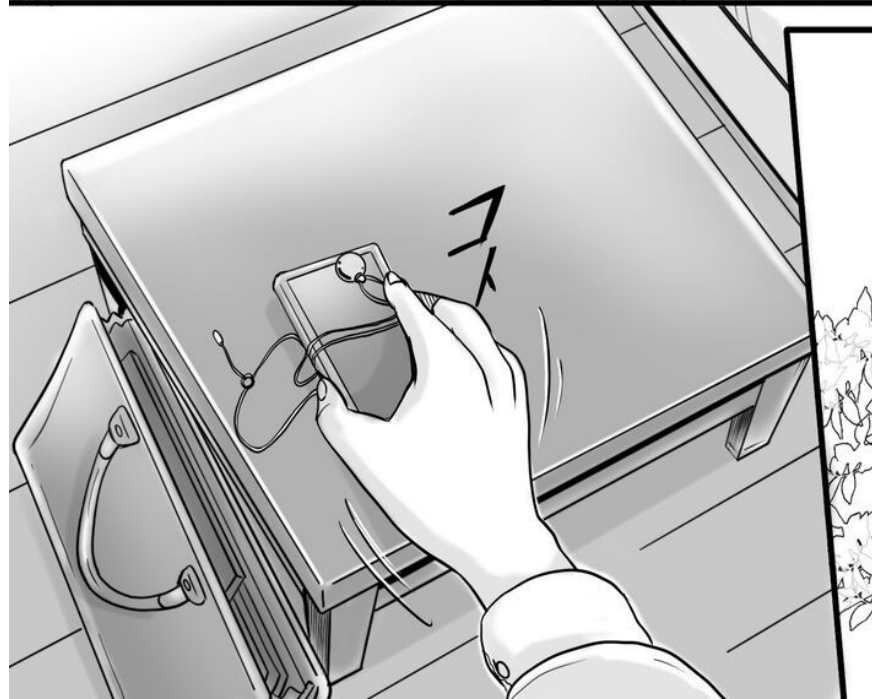
河野さんも
卒業させてあげなきゃ…

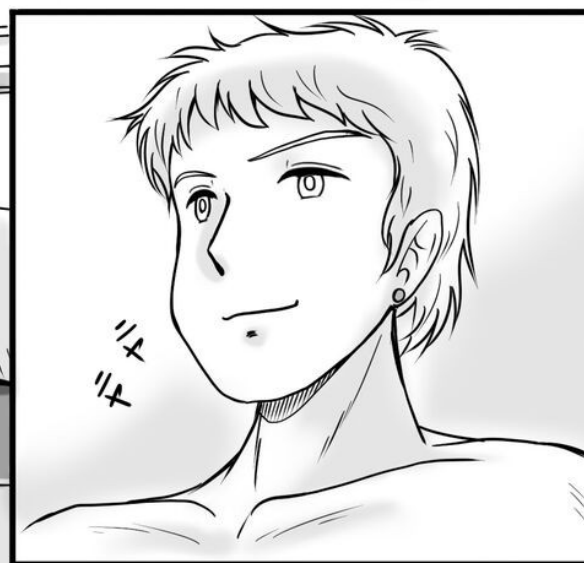
あ、あの
一回だけなら…



ありがとう。
唯花ちゃん。

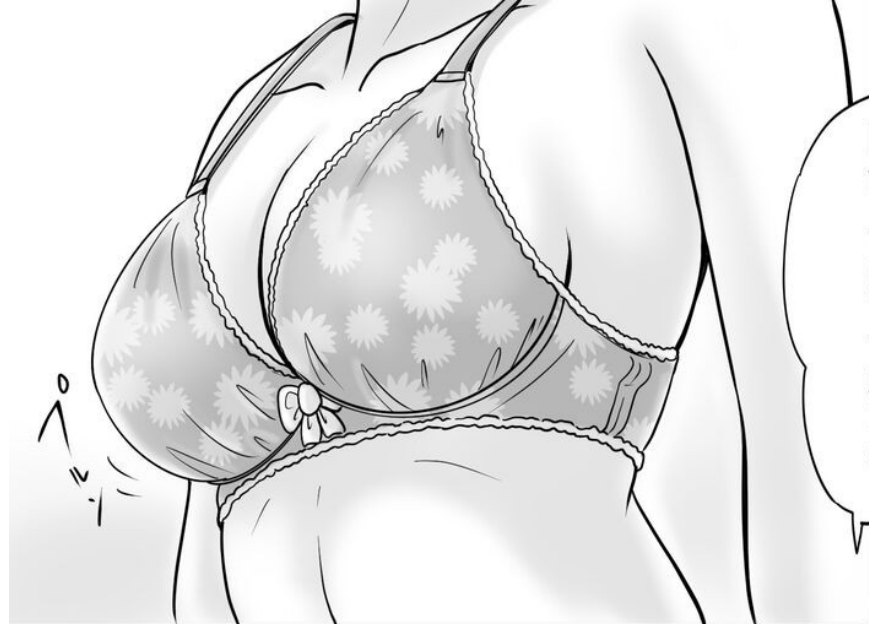




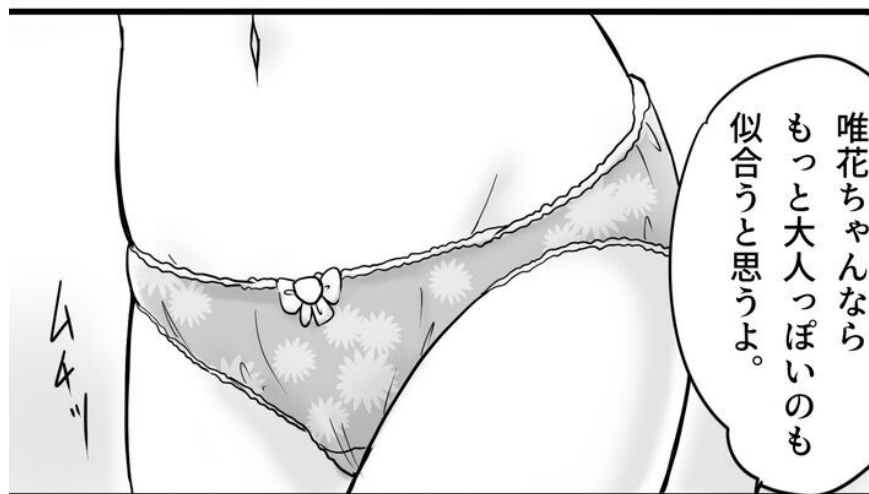


脱いだら
こっちを向いてごらん

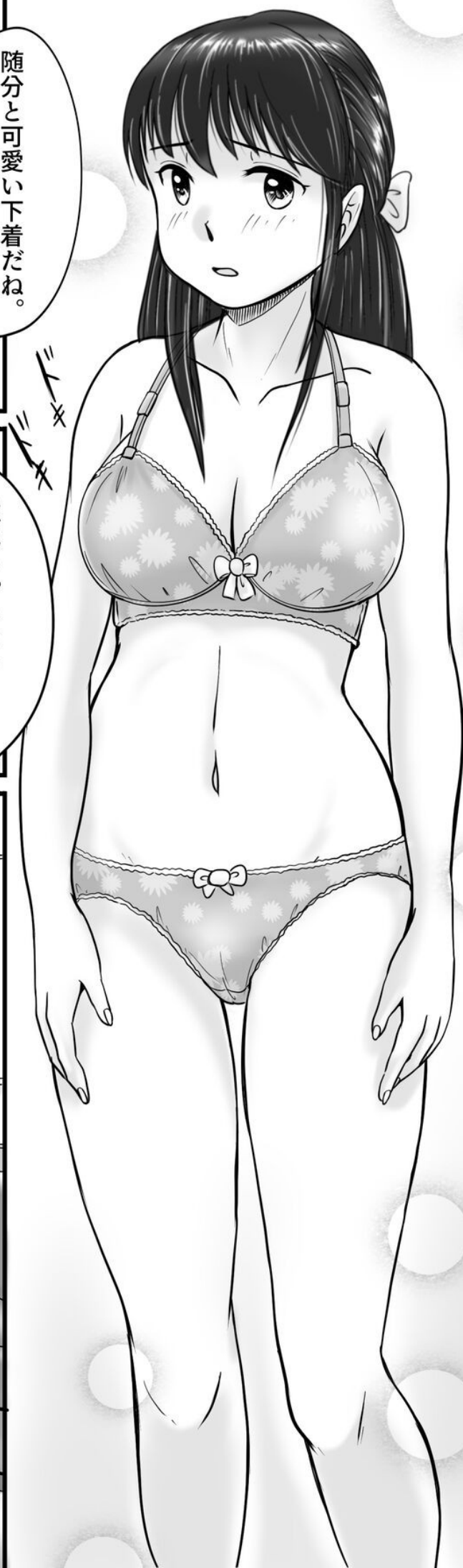


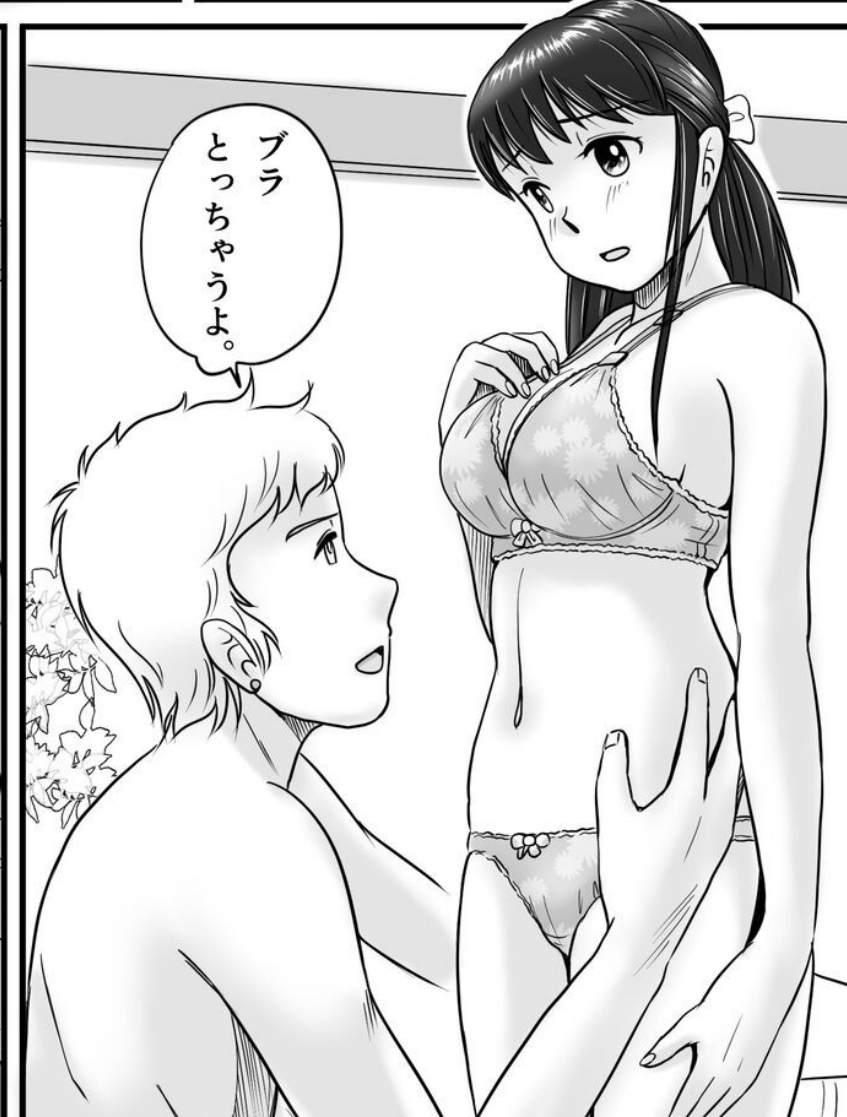


随分と可愛い下着だね。



唯花ちゃんなら
もっと大人っぽいのも
似合うと思うよ。







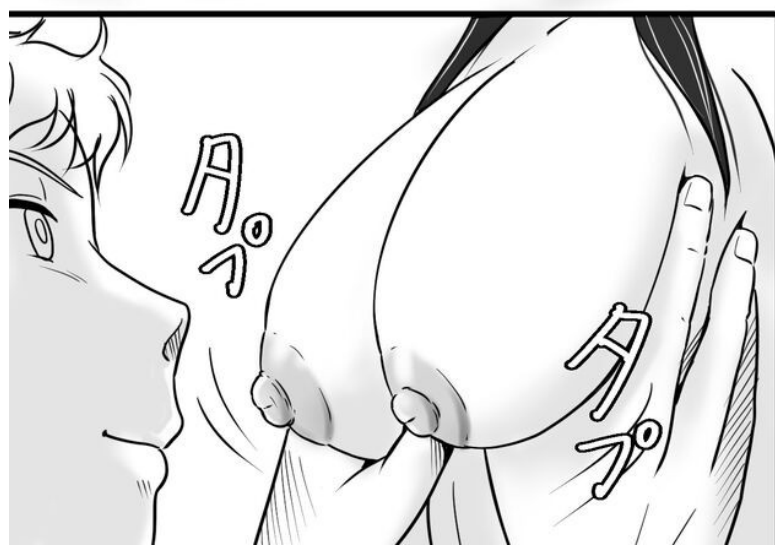
綺麗な
オッパイだね、
乳首も綺麗なだ。



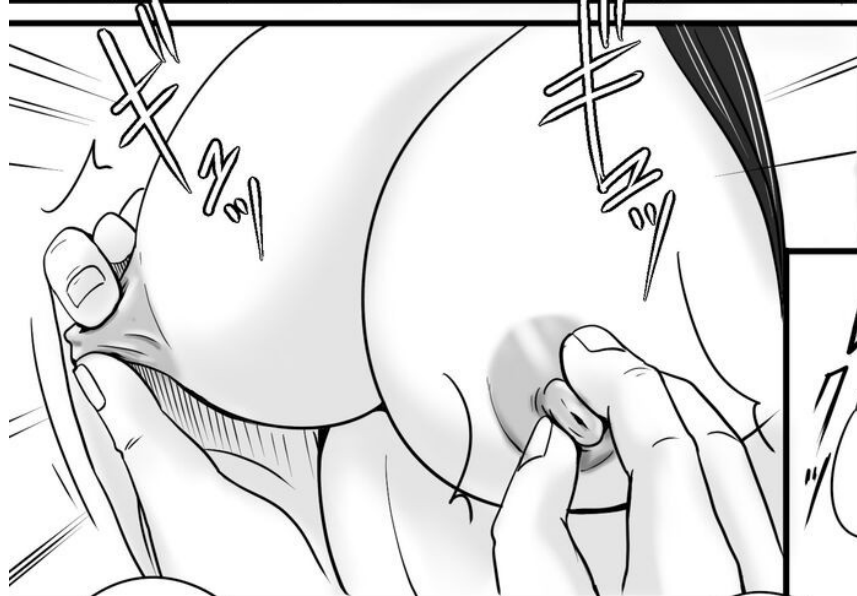
おおっ、

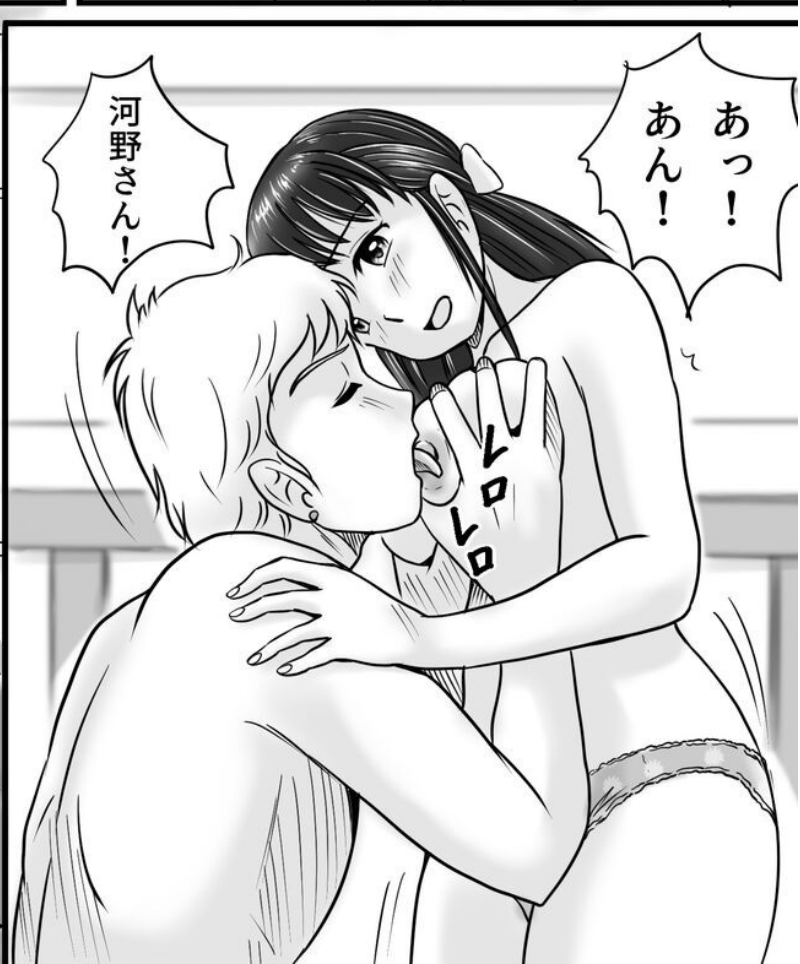
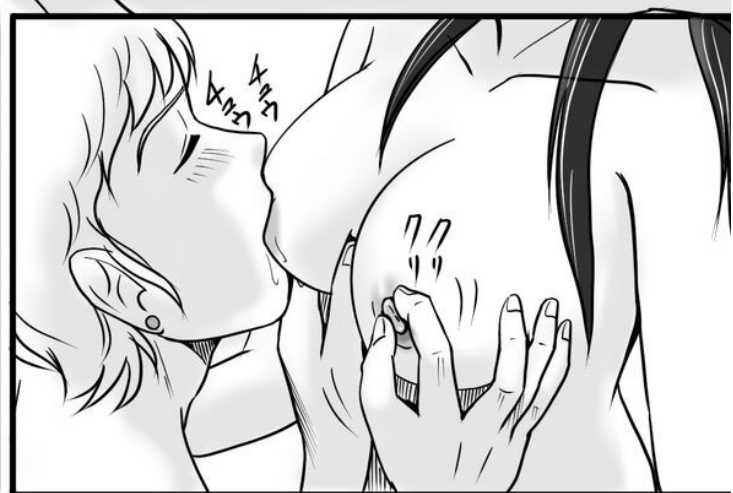
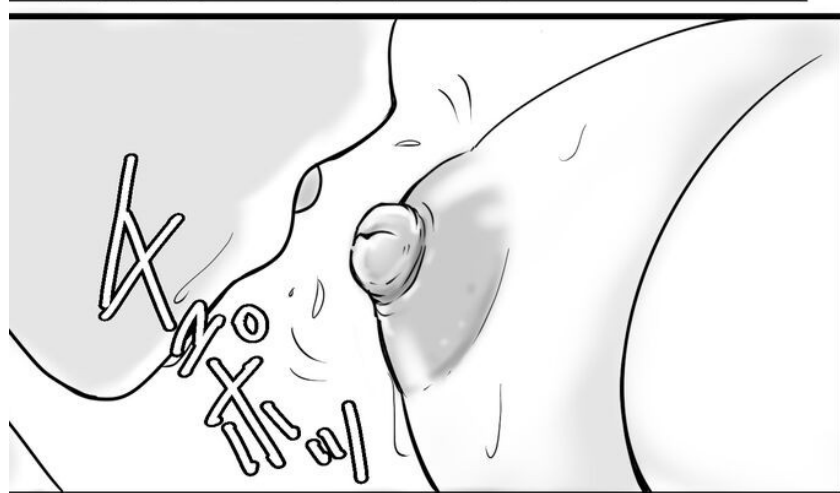


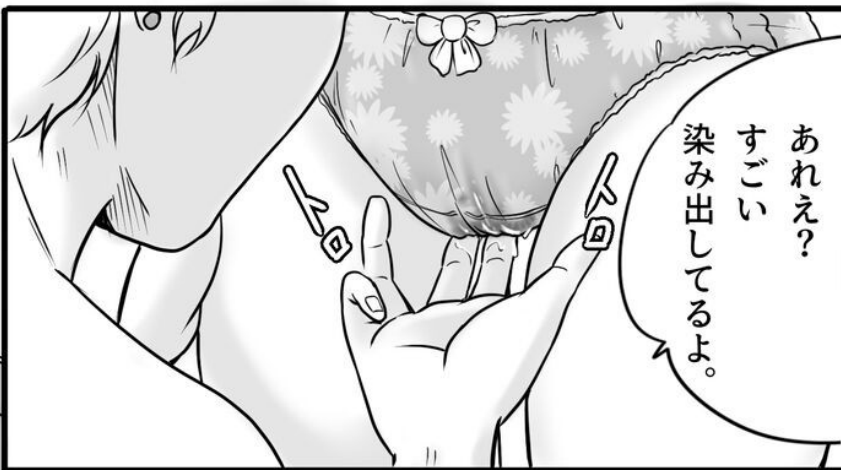
早く
触って欲しいのかな？



あっ！







パンツ
濡れちゃったね。

あんまり
見ないでください。

唯花ちゃんは
剃らない派なんだ。

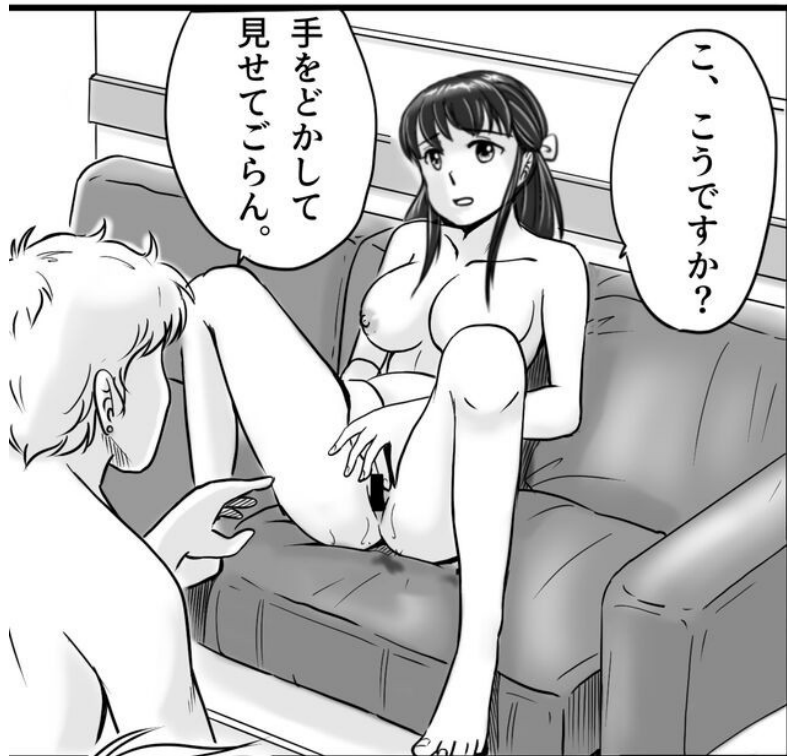
ほう！

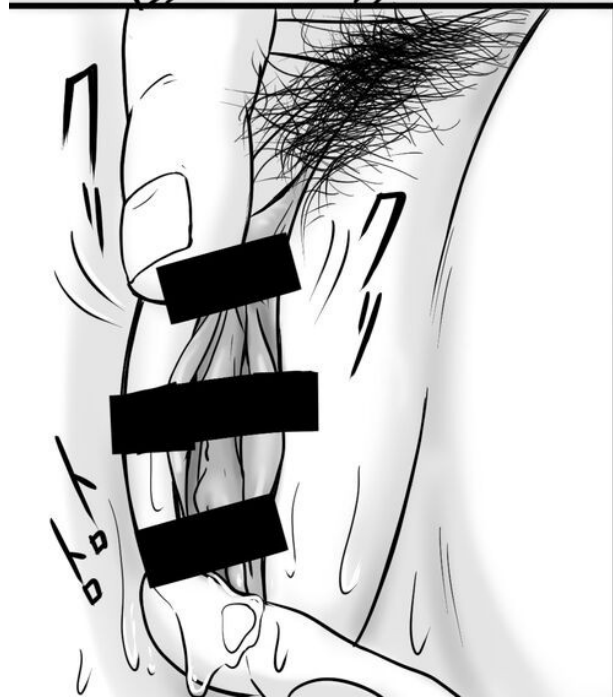
ん、
ああっ！

もう
びしょびしょじゃん。

み、
見せなくていいです！

こっちに
座ってごらん。





唯花ちゃん
濡れやすいんだね。

し、知りません！

お味はどうかかな？



唯花ちゃんのなら
気にしないよ。

あ、ああっ！

んっあっ！







あっ!

そ、それ
ダメえ!



そ、そんなに
長くされたら...



ああんっ
ああ!

ああ!



唯花ちゃん
ひよっとしていった？

いっ
いってません！



え？
私、いった？



唯花ちゃん
こういうのは
初めてかな？

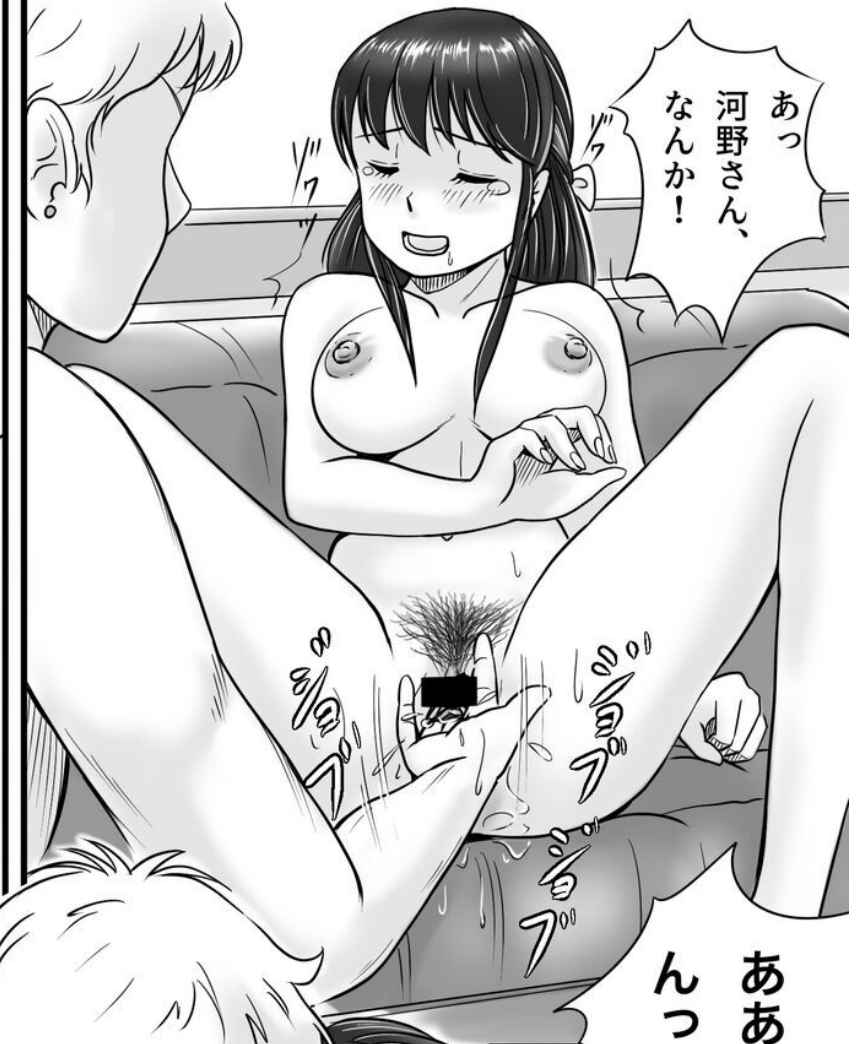
えっ？！



ほう！
そうかな。

じゃあ
こんなのは
どうかな？







ふうん

いいいつもは
こんなじゃないんです！



ほら、
唯花ちゃん
こんなに出了よ
凄いね！



は、はい。



僕も
気持ちよくしてくれないかな？



唯花ちゃん
ばかり
ズルいなあ。



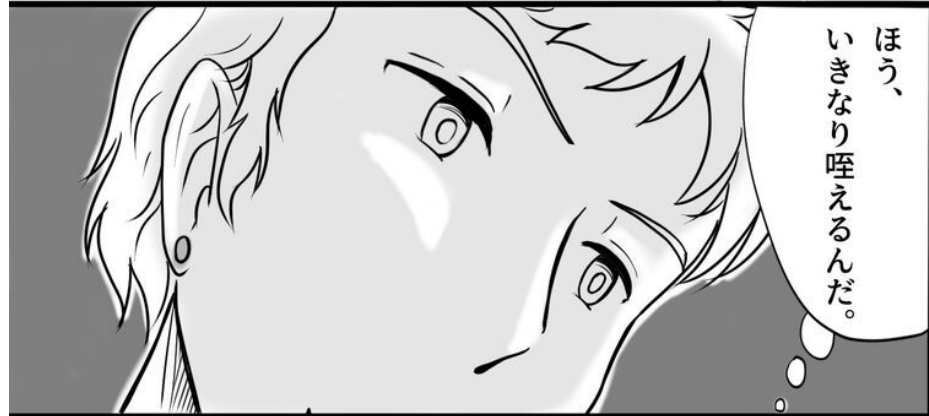
じゃあ
いつもより
良かったってわけだ。

ごめんね。
呑んじゃうと
立ちが悪くてね。

大きく
してくれるかな？



ほう、
いきなり啜えるんだ。



え！
急に大きく！





こんなに
大きくなる
の!?

こ、
こんなに...

やっ!

唯花ちゃんの
顔くらいあるでしょ?

伸び代ある方なんだよね。
喜んでもらえたかなあ?

普段やっている様に
やってみてごらん。

唯花ちゃん、

す、凄い...

凄い硬くて
熱い。

普段通りって…

いつも
たっ君に
してる様に…

先っぽ舐めながら
手でしごいて
下の方は柔らかく…

つばを口に溜めて

唯花ちゃん
うまいねえ。

顔全体を動かして
吸う様にして
しごきも合わせて…

ちゅぽ
ちゅぽ

裏は
スジに沿って
舌で…



こっちは、
優しく転がす
様に



なんだ、
結構仕込まれてるじゃないか



じゃあ
こんなのもいけるよね





ほら、ほら、ほら！



ほら
唯花ちゃん、

もっと奥まで啜えないと
気持ちよくないよ。



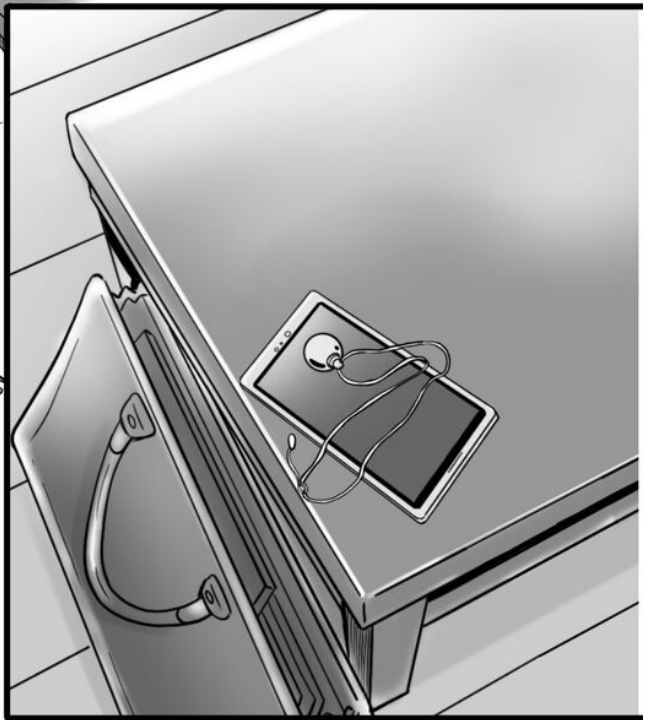
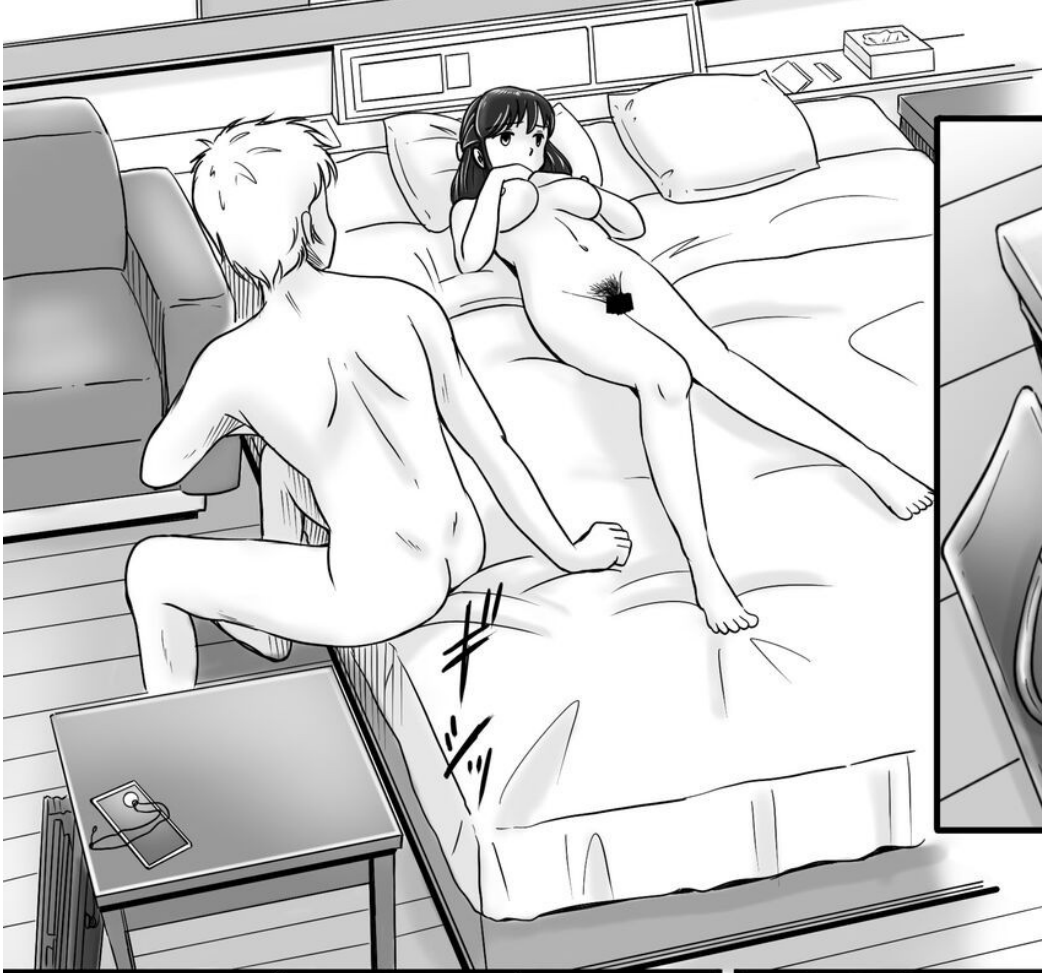
唯花ちゃん
ごめんね。

気持ち良かったから
やりすぎちゃったね。



入れたくなっちゃった。
そろそろ
ベッド行こうか？

...



唯花ちゃん
さっき気付いたんだけど。

ひょっとして彼氏に
満足させてもらって
ないんじゃないの？

そ、
そんな事は…

僕なら
これで

唯花ちゃんを
満足させて
あげられるかもよ。

え!?

試して
みるよね。

あ、あの

ゴムは!?

大丈夫、
外に出すから…





ほら
奥まで届いたよ。

唯花ちゃん
痛くない？

だ
大丈夫です。

じゃあ、
動くね！

あ
あ

う
う





こ、
河野さん！

あ、
私！いつ、

唯花ちゃん
派手にいったねえ!

よいしょ。

あ、あの
いったんで…

何言ってるの
唯花ちゃん。

今日は
何回でも
イって良いんだよ。

ほら!
また
いけ! いけ!



オラ！オラ！
いけ！いけ！

ダメえ
またイっちゃう！

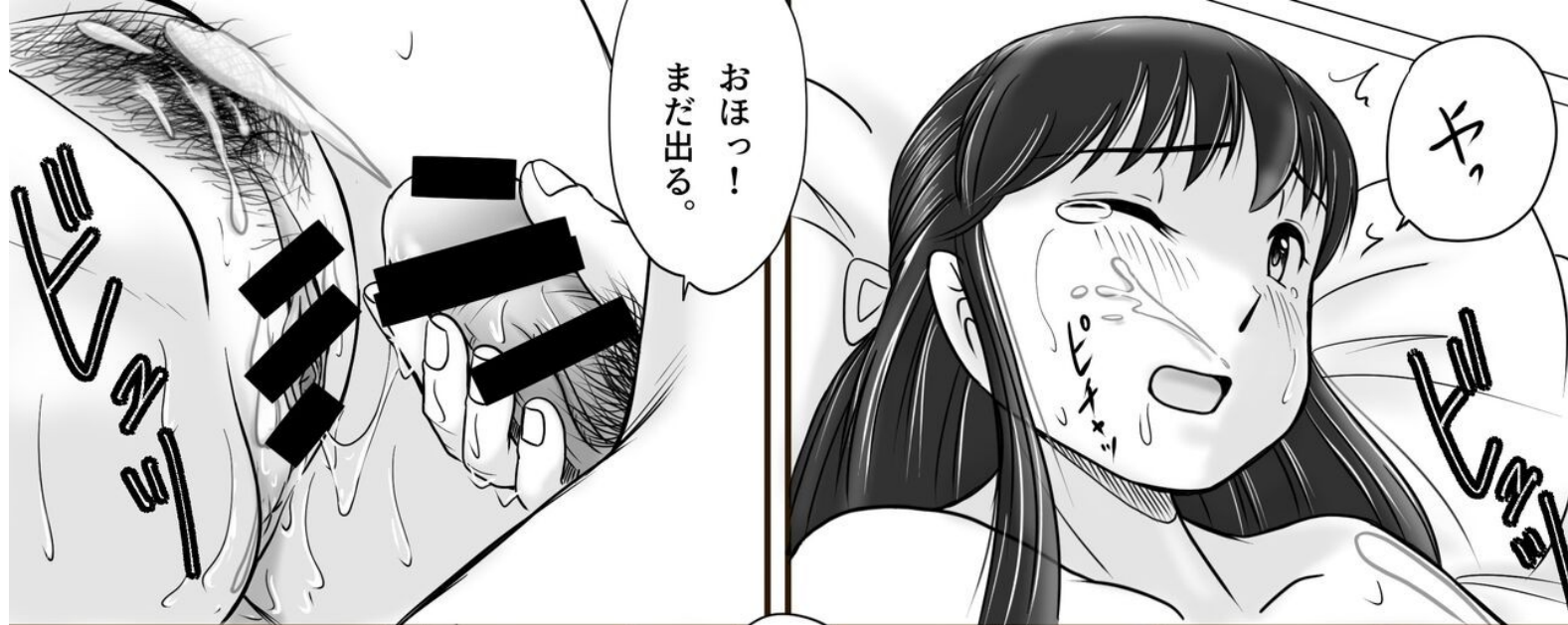
俺もそろそろ
やばい！

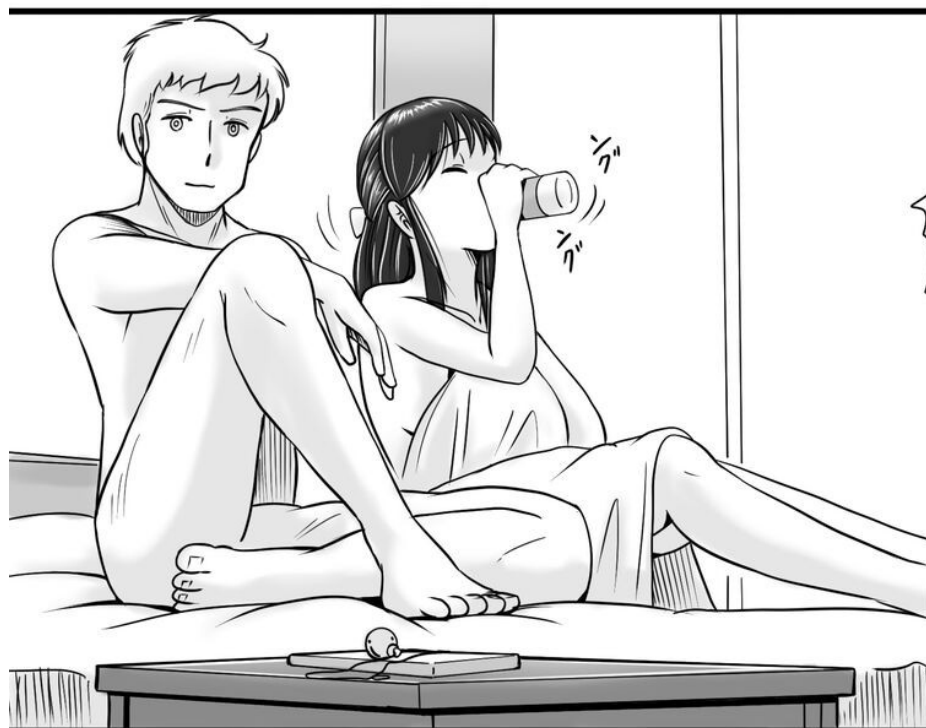
出るぞ！
出るぞ！

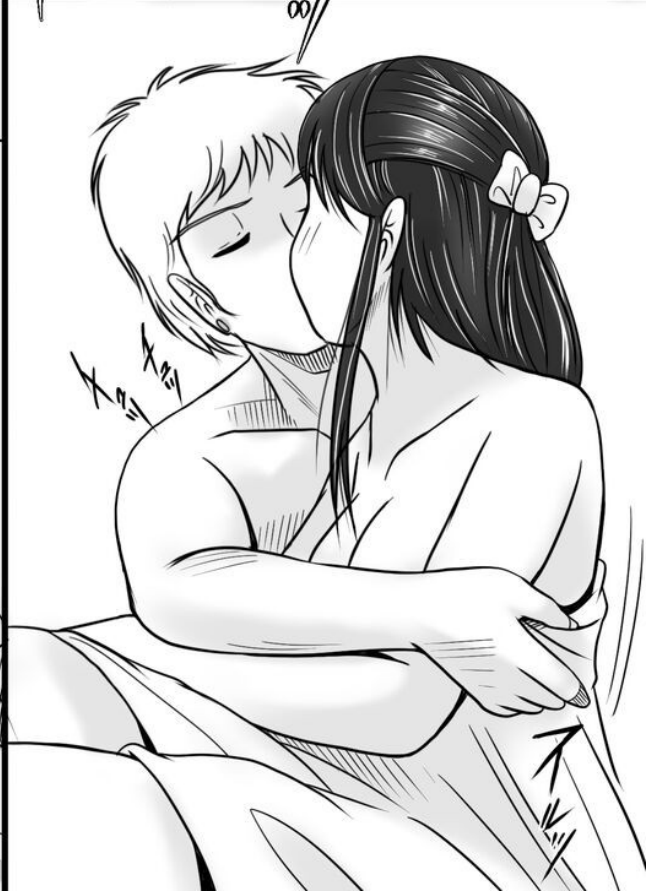
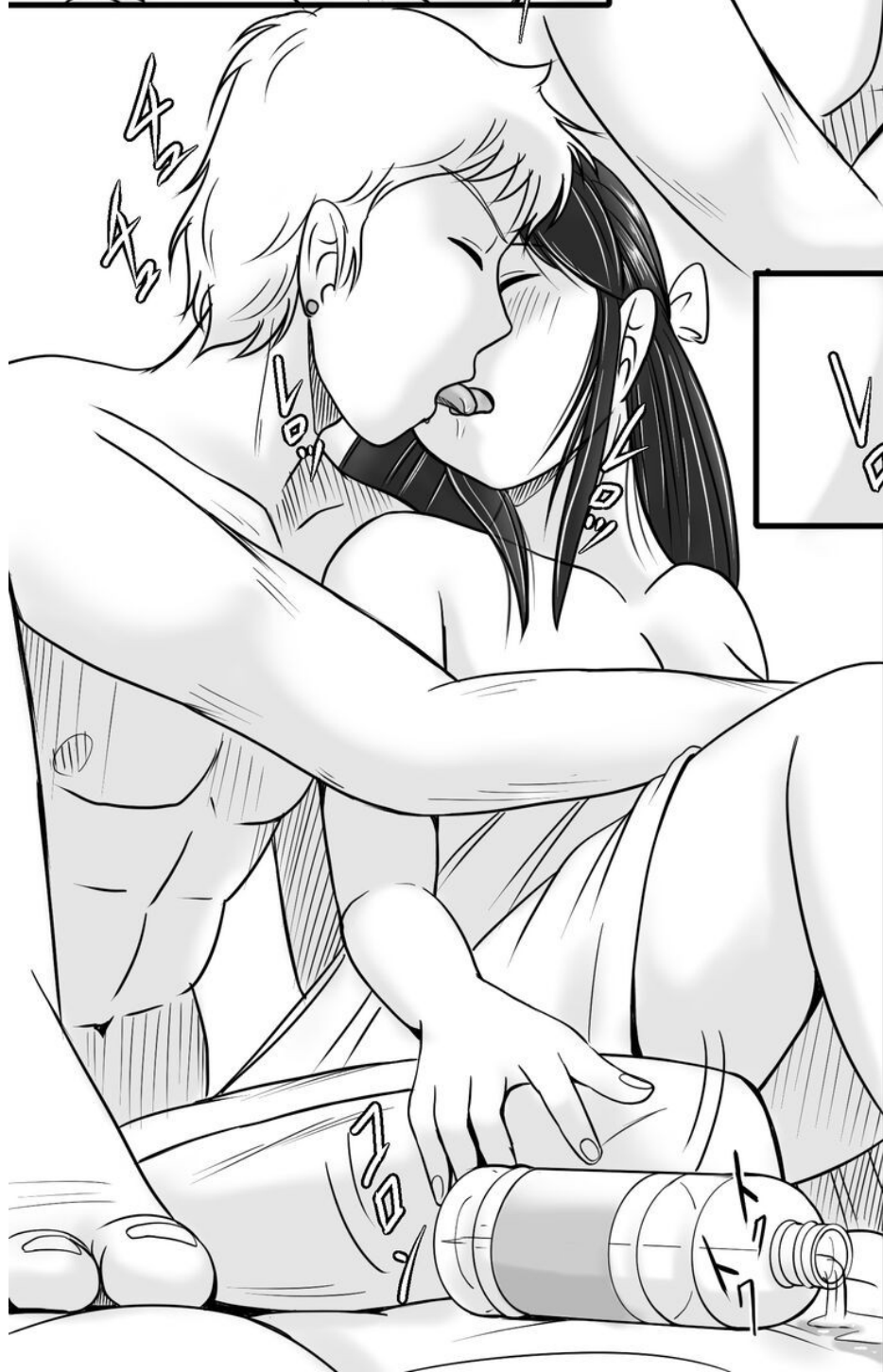
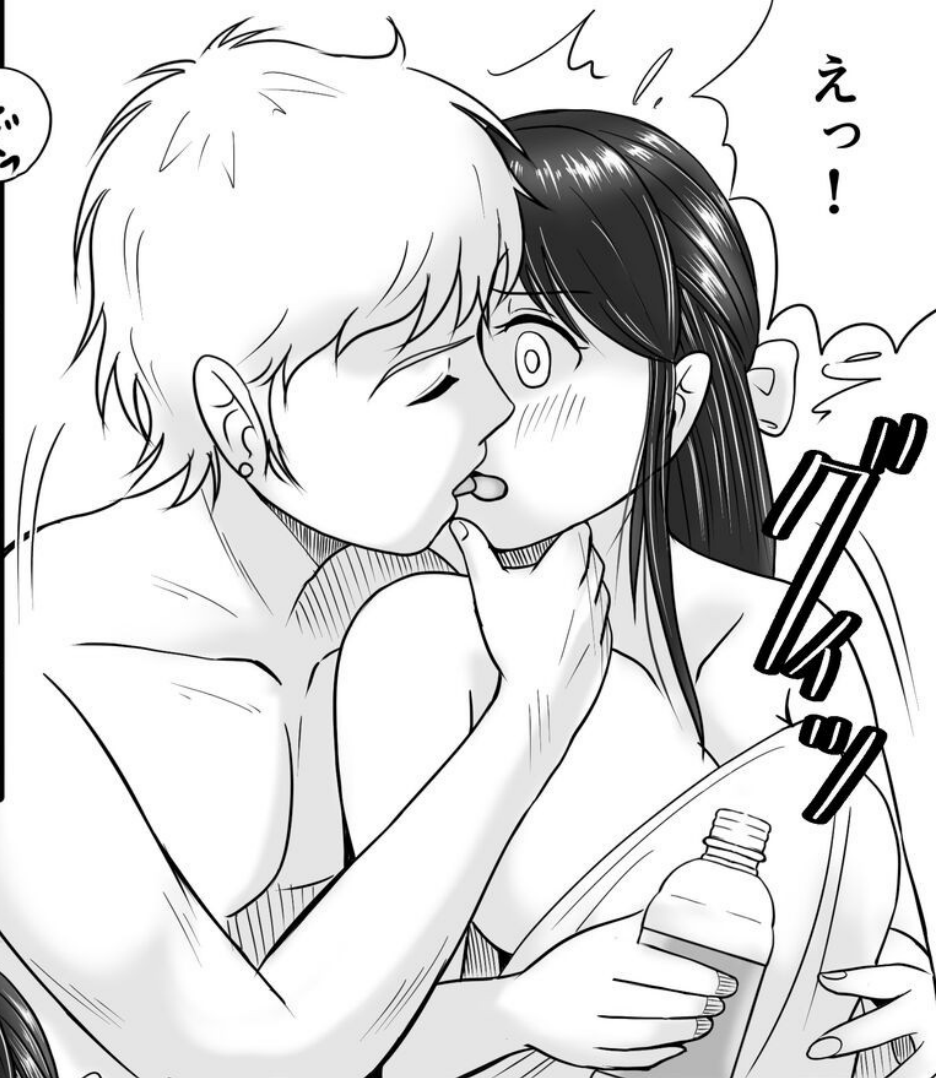
な！
中はダメです！

外に
お願いします！

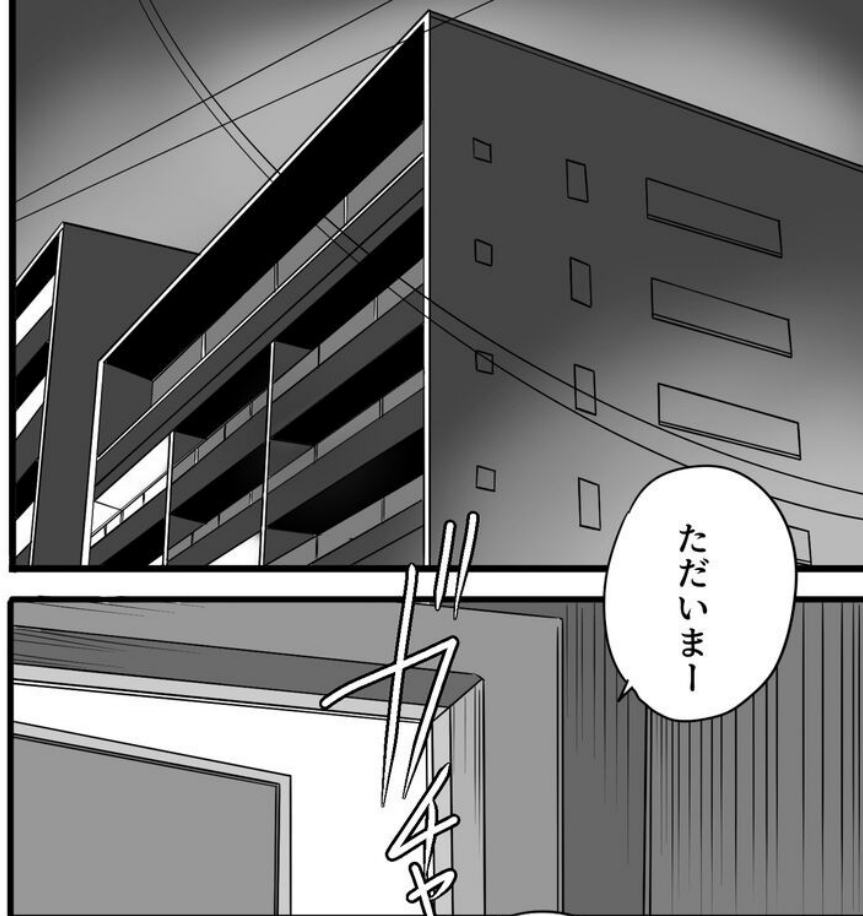














クンニ必要無いくらい
もうトロトロだね。

唯花ちゃん
準備万端じゃない。



あ、あの
これ以上は...



ん
ん
ん

だーめ！
今日は、
とことん楽しむよ。

今度は、
すんなり入ったよ。

唯花ちゃんのおまんこ
もう俺の形になっちゃったかな？

あつという間に
奥まで届いたよ。

な、
なってません！

最初から
飛ばして
いくよ！

オラ！
オラ！

唯花ちゃん
いつでもイッて
良いぞ！

河野さん
激しいです！

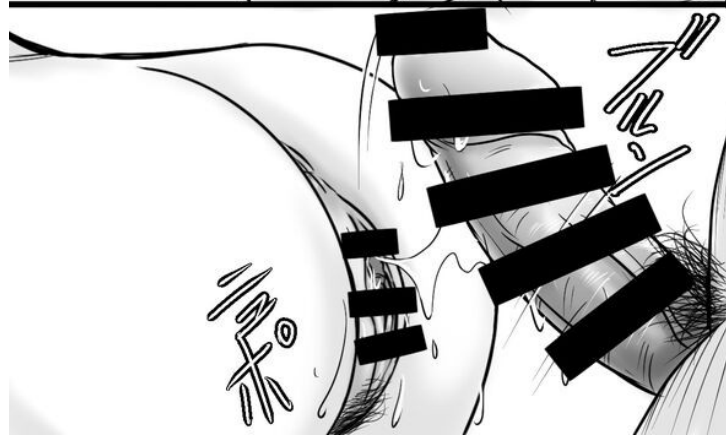
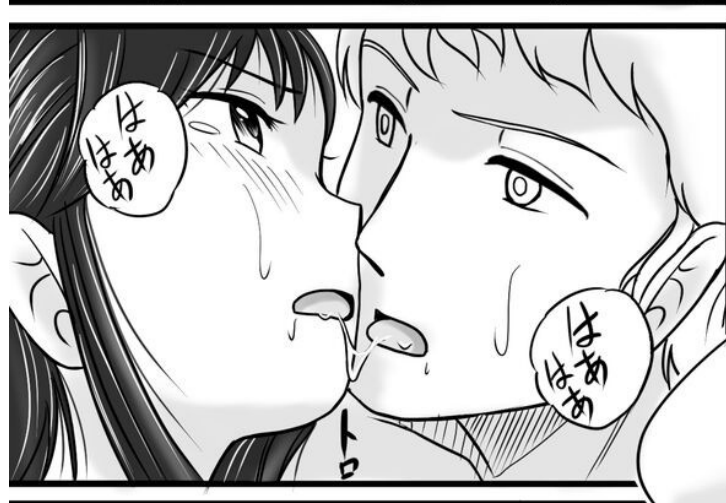
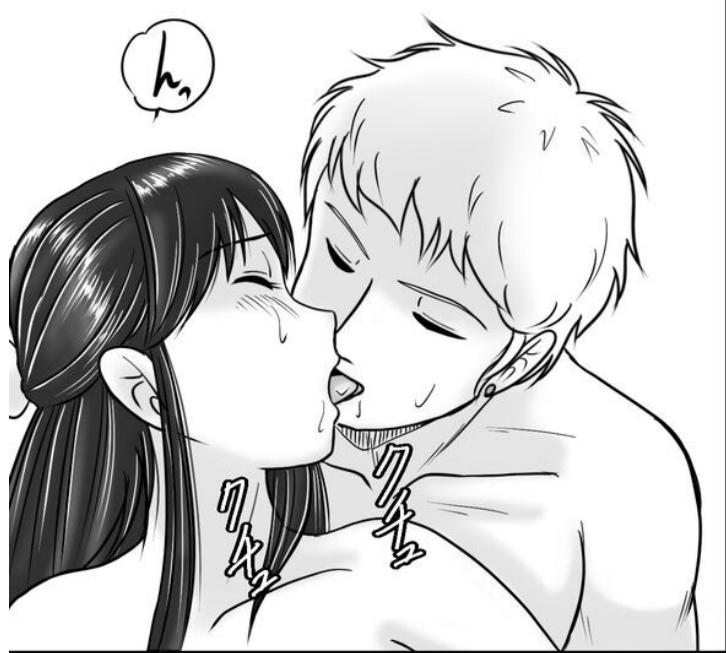
河野さんの
奥に当たって…

こ、
こんなの
初めて！

ズン
ズン
ズン













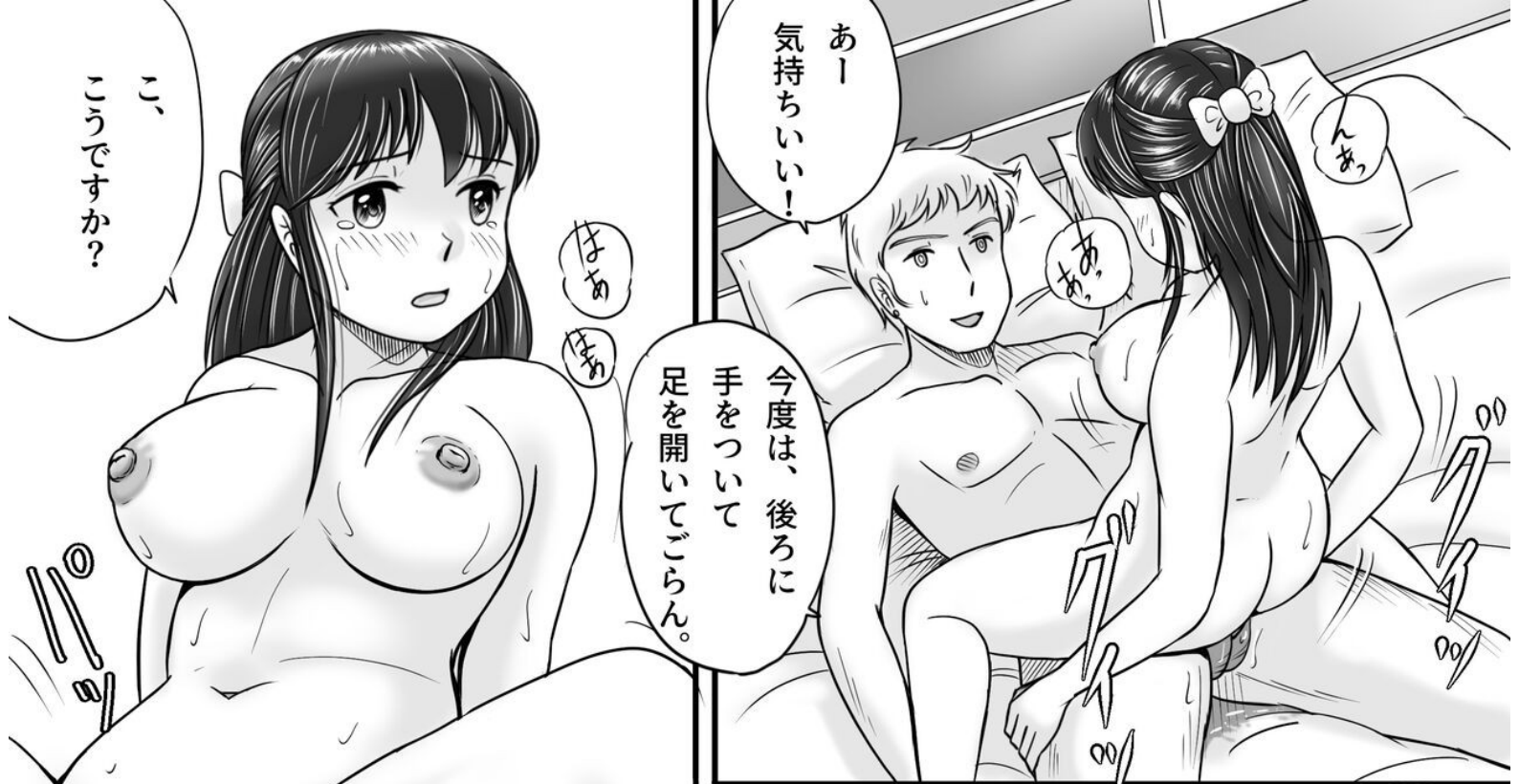
この格好、河野さんのが
私の一番奥に当たって！

凄い！
気持ちいい！

唯花ちゃん
夢中じゃないか。
そんなに俺の
いいのか？

ダメ！
腰が
止まらない！





あー
気持ちいい！

今度は、後ろに
手について
足を開いてごらん。

んあ
んあ

こ、
こうですか？



おー
すげ！

繋がってるとこ
丸見えじゃん！

あ、
あんまり見ないで
ください。

唯花ちゃんの
まんこ、俺のちんこ
がつつり啜え込んでる。

いただき！

グイッ

キューン

しゃ、
写真はダメです！



今日の二人の
思い出だよ。



誰にも
見せないから
いいだろう？



消してください！









ずっと一緒にいて欲しいから…

お守りにも
なるかなーって。

た、
たっ君…

なあ、
唯花ちゃん。

こ、
河野さん。
私…

今日はさあ、
とりあえず
俺だけを見てよ。

そんで、一緒に
気持ちよく
なろうぜ。

河野さんの
キス…

気持ちいい！



河野さんに
オッパイ吸われ
あそこを突かれると

何も考えられなくなる
ただ、もっと、もっと
気持ちよくなりたい！

ほら、
唯花ちゃん
見てごらん。

!



あんなに
大きいのが
私の中に…

す、
凄い！

あー



あー

唯花！

そろそろイクぞ！
イッていいか？

河野さん！

イッてください！

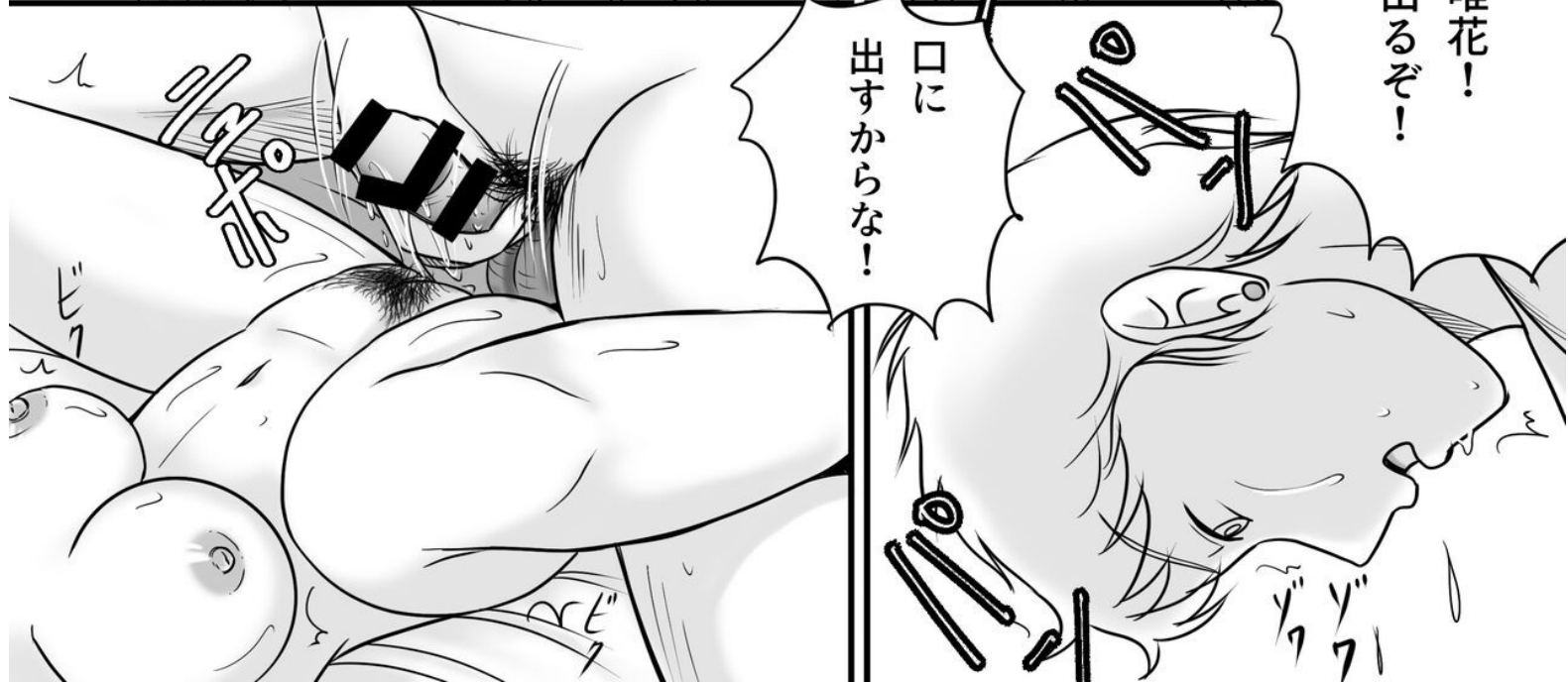
私も
イキます！





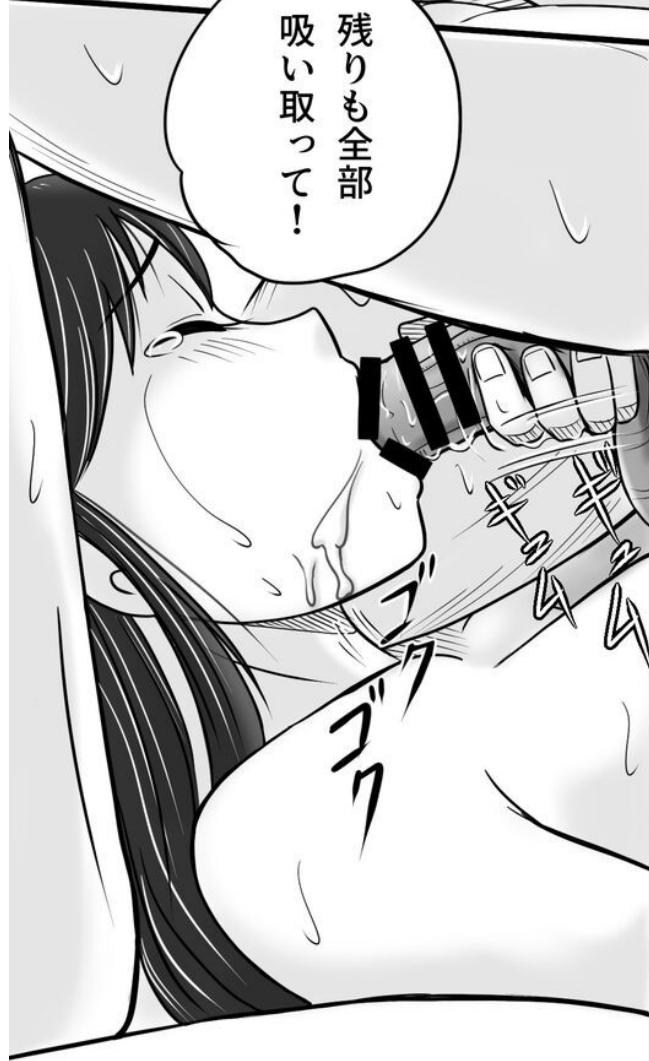
唯花！
出るぞ！

口に
出すからな！





出る！
出る！



残りも全部
吸い取って！



唯花ちゃん、
飲んで！



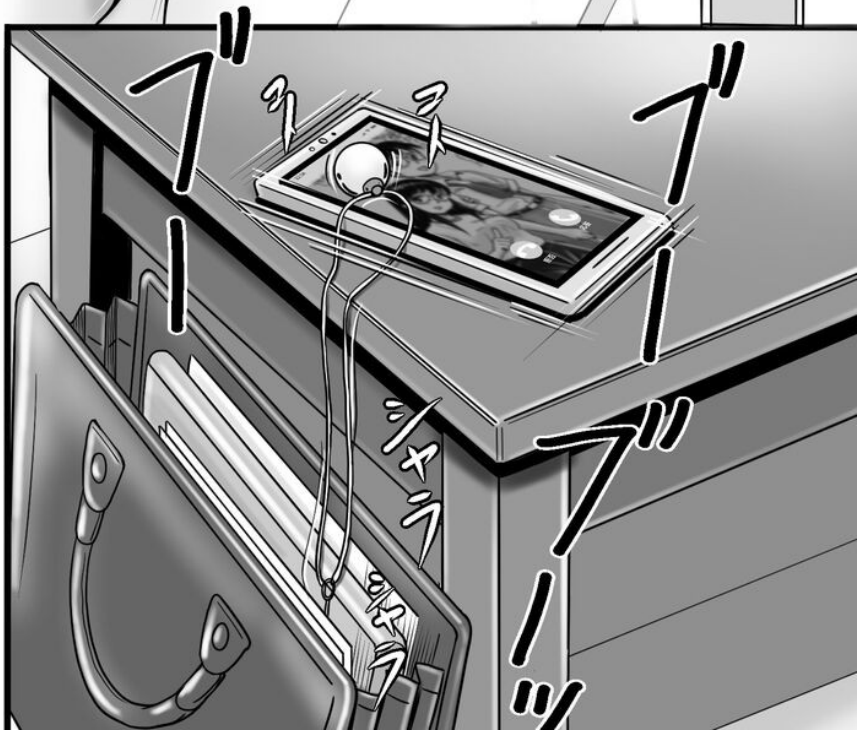
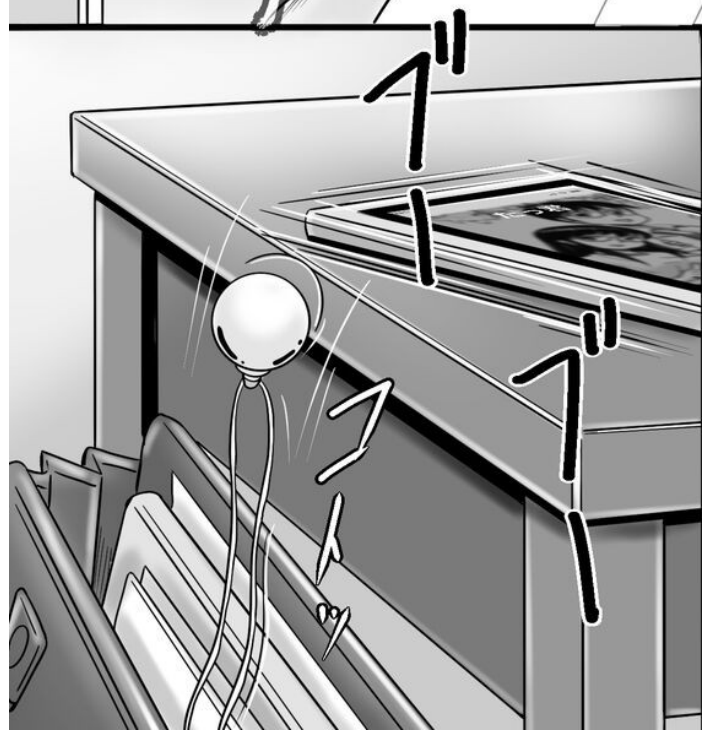
唯花ちゃん、
最高に
良かったよ！

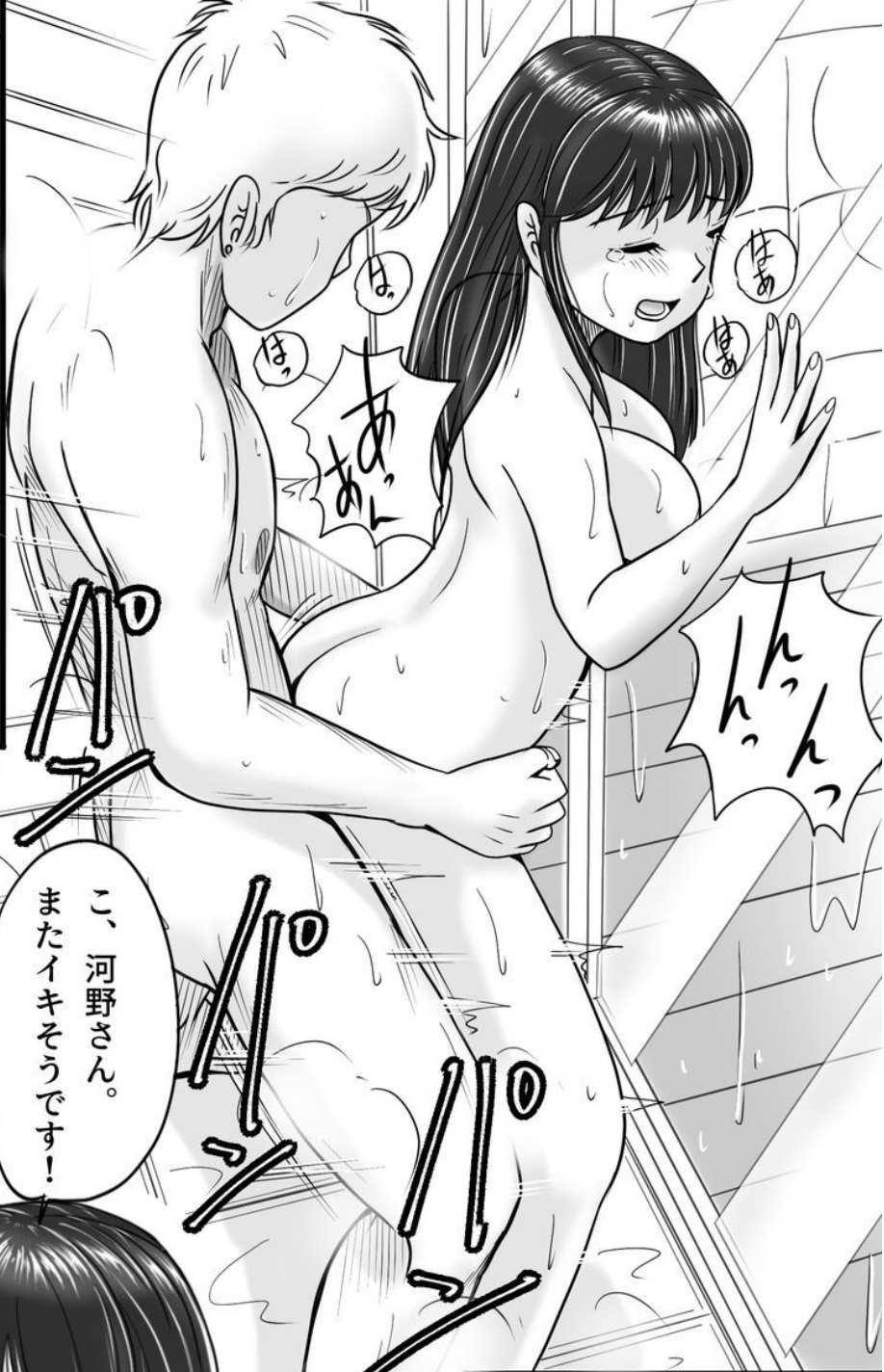
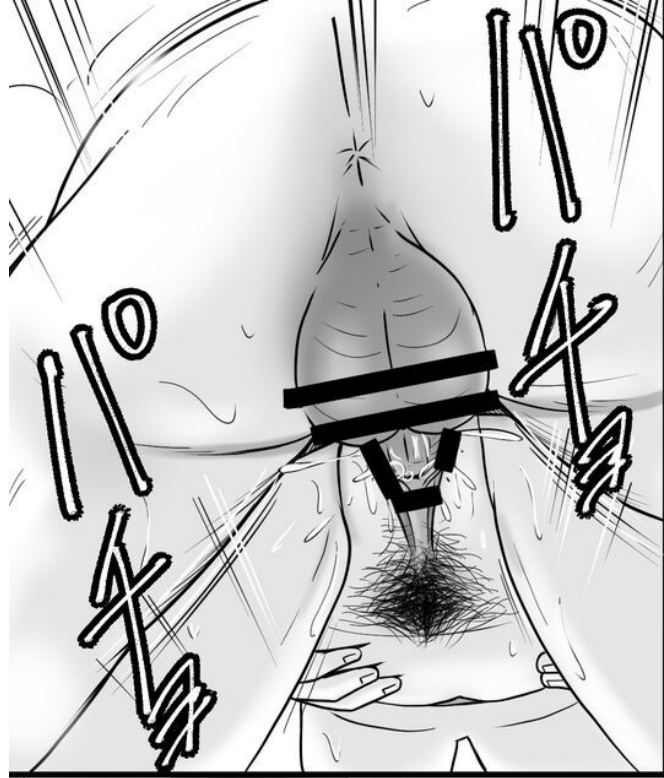


は、はい。



どう？
満足できたかな。





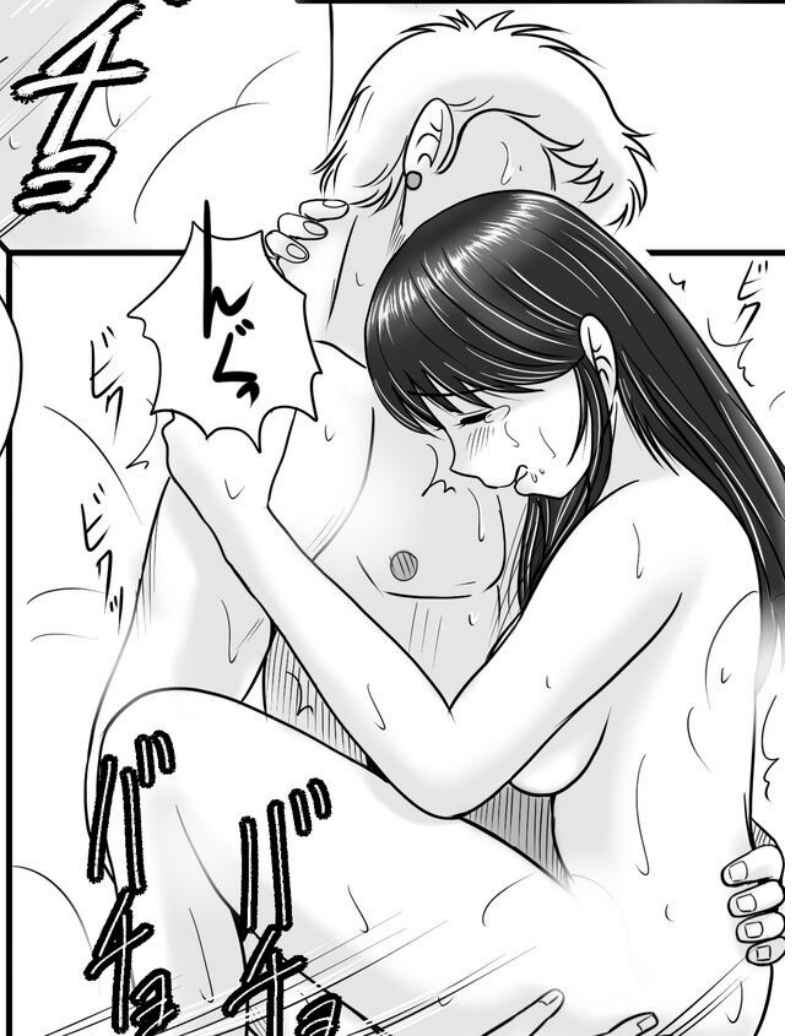
唯花ちゃん
最高に気持ちいいよ！

最後に思いっきり
突くからな！



俺もイク！
顔にかけるから
座って！

こ、河野さん
私、
イキました！



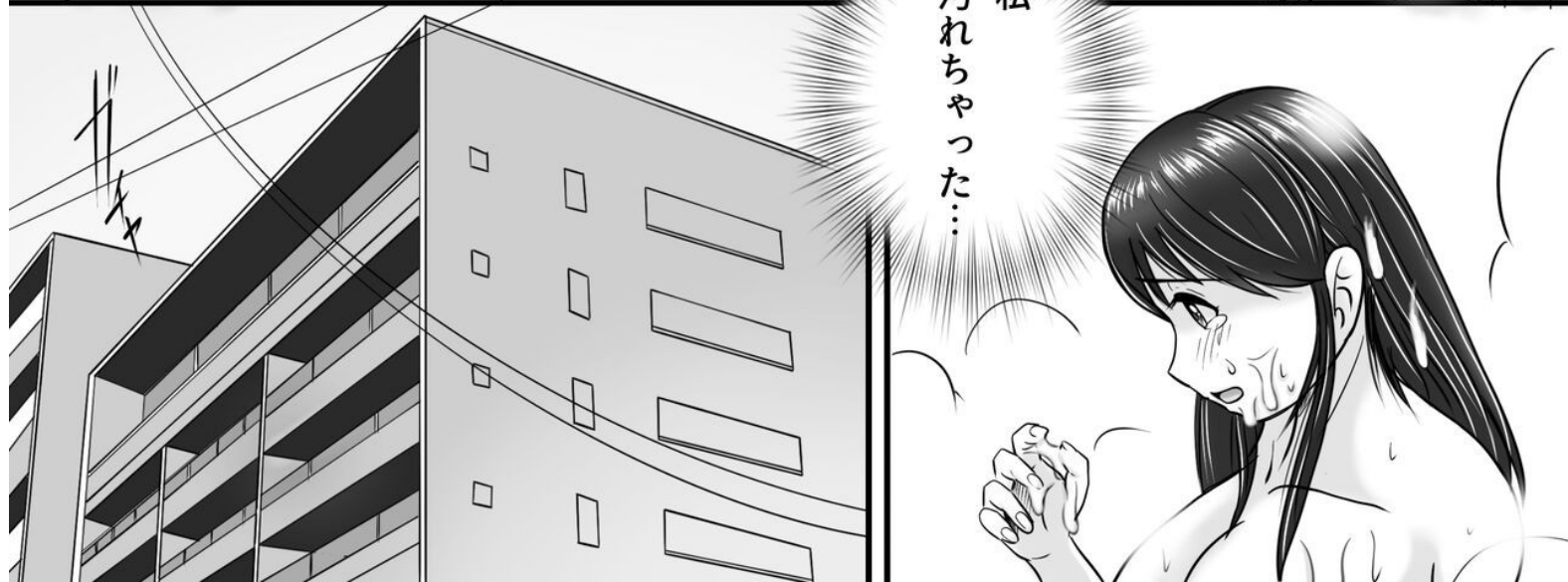




唯花ちゃんとなら
いくらでも
出せそうだよ。

たっ君…

私
汚れちゃった…



た、
ただいま…

唯ちゃん！
心配したよ！

茜先輩の所に
泊まったんだって？

茜先輩から
連絡あったよ！

そうなの。
連絡しなくてごめん。

大丈夫？
なんか飲む？

ごめん。
寝かせて。

唯ちゃん…

本当は、
どこにいたの？

シャンプーの
匂い…

茜か？
悪かったな
アリーブイワーク。

あんた
桜坂にも
手出したの？

ああ、
たまたまな。

ワンナイトの
つもりだったけど
本気で落としたくなってるな。

桜坂って
拓也と付き合ってるんでしょ？
拓也に刺されるよ！

礼と言っではなんだが
今度3Pしようぜ。

しね！
バカ！

あいつに
そんな勇氣ねえって…

< 桜坂

送信っと。



桜坂唯花か。

面白くなってきた…



